

出来正典 (できまさのり)

1951年(昭和26年)鹿児島県出身 技術士
主な業務: 地域特性を活かした公園整備技術に関する検討業務等
主な業務分野: 公園緑地・景観整備・まちづくり全般の調査計画業務



石川圭一 (いしかわけいいち)

1957年(昭和32年)長野県出身 技術士
主な業務: 電通汐留本社ビル植栽基本計画・設計監修業務等
主な業務分野: 公園緑地・景観整備・まちづくり全般の計画設計監理業務



岩佐英史 (いわさひでふみ)

1955年(昭和30年)岐阜県出身 技術士
主な業務: 壬生町東雲公園基本計画・設計・監修業務等
主な業務分野: 公園緑地・景観整備・まちづくり全般の計画設計監理業務



八色宏昌 (やいろひろまさ)

福井県出身。東京農工大学大学院で景観生態学を専攻。2002年㈱グラック入社。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。芝浦工業大学大学院非常勤講師。歴史・文化・生活様式や都市・生態・地形等の場の特性を読み、計画・設計技術、生態工学を基礎とし、都市緑地計画、ランドスケープ計画・設計・管理計画、動植物調査に携わる。



白井浩司 (しらいこうじ)

1979年東京農業大学造園学科卒。株式会社エディ造園設計事務所(現株式会社グラック)に入社。主な業務は西新宿アイランドタワー屋外計画・設計(東京都)、武蔵野緑町団地建替造園計画・設計(東京都)、多摩平団地建替造園計画・設計(東京都)、青森県総合公園(三内丸山遺跡公園)整備設計(青森県)など。



田窪孝次 (たくぼこうじ)

1977年千葉大学園芸学部造園学科卒。同年アゴラ造園株式会社入社。現在常務取締役 統括工事本部長。東京都、練馬区、住宅・都市整備公団、日本道路公団等の造園工事現場代理人・主任技術者。近年は本社にて統括工事本部長として、品質管理及び安全管理を含め工事本部業務の総指揮をとっています。



荻野淳司 (おぎのじゅんじ)

1980年日本大学農獣医学部農学科卒。同年アゴラ造園株式会社入社。現在取締役 環境・開発本部長。宮内庁、東京都、住宅・都市整備公団、日本道路公団等の造園工事現場代理人。1984年からビックエアレーション工法・枝葉木根粉碎工法・サンドリフレッシュ工法の技術開発プロジェクトを開始し、現在に至る。



田中敏弘 (たなかとしひろ)

1987年専修大学北海道短期大学造園林学科卒。同年アゴラ造園株式会社入社。現在工事本部長。東京都、練馬区、住宅・都市整備公団、日本道路公団等の造園工事現場代理人・主任技術者。



加藤 修 (かとうおさむ)

㈱ヘッズ 取締役東京代表、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)、技術士(建設部門)
1960年宮崎県生まれ。千葉大学造園学科卒業。1996年~2003年千葉大学非常勤講師、1999年~武蔵野美術大学非常勤講師、日本造園学会教育職能委員、ランドスケープ建設技術委員、CLA黒ラブの会員
主な担当業務: 八王子みなみのシティー栃谷戸公園、全国都市緑化みやざきフェア基本構想・会場計画・設計、浜名湖花博主催者庭園計画・設計、アクティーフ留など



矢吹克美 (やぶきかつみ)

㈱ヘッズ 主任
1962年神奈川県生まれ。1987年大阪芸術大学環境計画学科卒業。同年大塚造園設計事務所(現ヘッズ)に入社
主な担当業務: 八王子市栃谷戸公園実施設計、稲城市若葉台公園実施設計、浜名湖花博花の美術館(モネの庭)実施設計など



福留正雄 (ふくどめまさお)

㈱ヘッズ 主任
登録ランドスケープアーキテクト(RLA)、技術士(建設部門)
1967年神奈川県生まれ。千葉大学造園学科卒業
㈱都市緑化技術開発機構ユニバーサルデザイン共同研究会運営委員、CLA技術委員会委員、CLA関東支部技術委員会委員
主な担当業務: 浦安総合公園基本設計、喜多緑地実施設計、愛・地球博記念公園一花の広場実施設計、など



石田裕樹 (いしだゆうじ)

1967年東京生まれ。1992年千葉大学造園学科卒業。同年㈱ライフ計画事務所入社。一級ビオトープ計画管理士、公園管理運営士。現在、犬一匹、金魚二匹と生活中。作為性を感じさせない造園空間の創出を目指しています。



村岡政子 (むらおかまさこ)

1949年東京生まれ。1974年千葉大学大学院修了。同年㈱ライフ計画事務所入社。RLA・技術士(建設部門・環境部門・総合技術監理部門)。子どもの頃のように、初夏にはどこからともなくイトトンボがあらわれ、晩秋には落葉あそびを楽しむことのできる心やすらぐ緑の街づくりをめざして、日々造園の仕事に励んでいます。



金子隆行 (かねこたかゆき)

1983年日本大学農獣医学部農学科卒業。同年㈱ライフ計画事務所入社、現在取締役業務本部長。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)、公園管理運営士、上級造園修景士。業界活動: 日本造園学会関東支部幹事、その他委員会委員、日本庭園協会神奈川県支部幹事、一造会常任幹事、CLA技術委員会委員。



松平和也 (まつだいらかずや)

東京都品川区出身。1996年日本大学農獣医学部農学科卒業。同年㈱シビックデザイン研究所入社。フリーランスを経て2003年より㈱ライフ計画事務所に入社。公園緑地・まちづくり全般の設計、監理業務を担当。東京マラソン2009をなんとか完走、でもマラソンにはもう出場しません。新たな減量対策を模索中。



大嶋 聡 (おおしまさとし)

1959年生まれ。西武造園株式会社設計営業部長。東京農業大学造園学科卒。技術士（建設部門）、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。主な仕事に三養荘、マケナリゾート（ハワイ州マウイ島）、ラグーナ蒲郡、国際バラとガーデニングショウ（大賞受賞）、ザ・プリンスパークタワー東京、ふれあい町田ホスピタルなど。



加庭理絵 (かにわりえ)

西武造園株式会社設計営業部チーフデザイナー。女子美術大学芸術学部絵画学科卒。主な仕事にトルナーレ日本橋浜町、アサヒビール福島工場、フォーシーズンメモリアルシリーズ、オリックスグッドタイムリビングシリーズ、花園フォレスト、国際バラとガーデニングショウなど。



宮城あずみ (みやぎあずみ)

西武造園株式会社設計技術部を経て、平成19年度8月より管理運営事業部所属。植栽管理、イベント企画を担当。恵泉女学園園芸短期大学卒業。グリーンアドバイザー。主な仕事に丸の内ガーデニング賞、国際バラとガーデニングショウ、花園フォレストなど。現在は横須賀市ヴェルニー公園でバラの植栽管理を行う。



佐橋輝恵 (さしきえ)

西武造園株式会社設計技術部を経て、平成20年度4月より設計営業部エクステリア営業所グリーンジャム国立店所属。個人邸専用庭のデザイン及び施工監理を担当。文理ランドスケープ園芸専門学校卒業。造園施工管理技士2級。主な仕事にオリックスグッドタイムリビングシリーズ、国際バラとガーデニングショウなど。



宇戸睦雄 (うどむつお)

1960年京都市生まれ。京都芸術短期大学卒業後、株式会社環境研究所入社、1993年株式会社空間創研入社。「植物の生育基盤」と「空間（ものどもの間）」にこだわり調査、計画、設計と幅広く仕事をしているうちにはや27年。空気のように目立たず、かといって無くては困る空間づくりを目指しています。代表作：梅小路公園「朱雀の庭」「いのちの森」



泉 崇 (いずみたかし)

1997年金沢美術工芸大学卒業。同年、株式会社空間創研入社。公園緑地の実施設計を主体に、植物発生材の利活用や草地管理の調査・研究など様々な業務に携わる。「場」の特性を見つめ、時間の経過とともに心地よく魅力的なものとなる「場づくり」を目標に仕事に取り組んでいる。



片木孝子 (かたぎたかこ)

東京都生まれ。1997年昭和女子大学生生活環境学科卒業、99年東京農業大学大学院修了。2年間の留学経験を経て、01年株式会社空間創研入社。公園計画・設計のほか、ビオトープ計画などを担当。風土を活かした環境づくりと、地域と調和した「居心地の良い」空間づくりを目指しています。



長谷川均 (はせがわひとし)

1981年福井工業大学建設工学科卒業。同年株式会社ブラック研究所入社。環境・ランドスケープなどの計画・設計に従事。技術士（建設部門：都市及び地方計画、環境部門：自然環境保全）、登録ランドスケープアーキテクト（RLA）。



黛 卓郎 (まゆずみたくろう)

1967年東京農業大学造園学科卒業。1980年株式会社ブラック研究所入社。都市計画、地域計画、ランドスケープなどの計画・準備、文化財保護計画などに従事。1995年造園学会賞受賞。技術士（建設部門：都市及び地方計画、環境部門：自然環境保全）、樹木医、登録ランドスケープアーキテクト（RLA）。



和田克臣 (わだかつおみ)

1980年九州芸工大学大学院芸術工業研究科生活環境修士課程修了。1984年株式会社ブラック研究所入社。環境・ランドスケープなどの計画・設計・監理に従事。技術士（建設部門：都市及び地方計画、河川・砂防及び海岸、環境部門：自然環境保全）、登録ランドスケープアーキテクト（RLA）。



福岡 薫 (ふくおかかおる)

1965年生まれ、東京育ち。日本大学生産工学部建築工学科卒。1992年株式会社ブラック研究所に入社。都市公園、動物園などに関わる建築、ランドスケープの計画・設計に従事。一級建築士、登録ランドスケープアーキテクト（RLA）。





CLA 賞の趣旨と募集・選考のあらまし

CLA 賞の趣旨



CLA 技術委員会委員長 枝吉 茂種

ランドスケープコンサルタンツ協会賞 (CLA 賞) は、会員の優れた作品や業務を顕彰し、協会内部だけでなく広く社会に紹介し、協会全体の発展に寄与していくことを目的として設けられたものである。

この賞は、ランドスケープ分野のプロフェッショナルが、会員の行ったランドスケープのプロの仕事から自ら真摯に評価し、優秀なものを選定するというシステムに特徴がある。プロがプロを手前味噌にならずに評価するというのは、言うは易いが実施はなかなか困難である。CLA 賞は25年余りの長きにわたってこの趣旨を継続しており、さまざまな顕彰制度の中で、希有な存在と評価されている。

これもひとえに会員の皆様の情熱、選考委員や技術委員の熱意に支えられてのことであり、担当者として深く感謝する次第である。

募集・選考のあらまし

今回も CLA 賞の募集・選考と活用の方針に基づき、2008年12月15日を応募期限として作品の募集、その後、選考委員会を開催し CLA 賞を決定した。

CLA 賞は毎年、「設計」「調査・計画」「表現・活動」の各部門とそれぞれの部門に一般部とテーマ部に分けて作品を募集しており、今年度のテーマ部のテーマは、「地球温暖化とランドスケープ」として作品の募集を行った。

ランドスケープコンサルタンツは、生き物を扱う技術を駆使し、自然環境との共生を図りつつ緑豊かな環境整備を目指しており、大規模な地球温暖化対策緑地から生活の身近に存在する街区公園、建築物の熱環境改善に寄与する特殊緑化等々、われわれの仕事の一つひとつが地球温暖化防止の一翼を担っている。

このような「地球温暖化とランドスケープ」に関わるプロジェクトについて空間スケールの大小にこだわらず幅広く、多くの作品の応募を行った。

作品の応募と選考結果

今年度の応募作品数は11作品と例年より少ない作品数であった。非常に残念だが、応募作品はどれも力作であり、優秀賞：4点、特別賞：1点、奨励賞：2点の計7点の作品が受賞という結果となった。

応募作品数・選考結果は、下表の通り。

部	部門	応募数	最優秀賞	優秀賞	奨励賞	特別賞
一般	設計部門	8点	該当なし	3点	1点	1点
テーマ		1点	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
一般	調査・計画部門	1点	該当なし	1点	該当なし	該当なし
テーマ		0点	—	—	—	—
一般	表現・活動部門	0点	—	—	—	—
テーマ		1点	該当なし	該当なし	1点	該当なし

選考委員会

前述のとおり、選考委員会は、CLA 会員企業の技術者だけでなく、学識経験者なども加えて、客観的な視点も加味して選考に当たられるように人選を行った。選考委員の名簿は以下のとおりである。

1. 設計部門 (50音順)
 - 委員長 金清典広 (高野ランドスケーププランニング㈱)
 - 委員 佐藤四郎 (理事/㈱日比谷アメニス)
 - 〃 手塚一雅 (㈱森緑地設計事務所)
 - 〃 名取重広 (㈱空間創研)
 - 〃 福留正雄 (㈱ヘッズ)
 - 〃 藤江哲也 (㈱三菱地所設計)
 - 〃 丸山英幸 (㈱愛植物設計事務所)
2. 調査・計画部門 (50音順)
 - 委員長 石井ちはる (㈱総合設計研究所)
 - 委員 菊谷 隆 (㈱オオバ)
 - 〃 住吉泰男 (理事/助東京公園協会)
 - 〃 武林晃司 (㈱緑景)
 - 〃 前澤洋一 (㈱プレック研究所)
3. 表現・活動部門 (50音順)
 - 委員長 村岡政子 (㈱ライフ計画事務所)
 - 委員 柏原信幸 (㈱ポリテック・エイディディ)
 - 〃 小林高浩 (㈱飯沼コンサルタント)
 - 〃 杉井昌勝 (環境設計㈱)
 - 〃 松本 守 (理事/フジテレビジョン)

※肩書きは、選考委員会開催当時

～みどりの環境都市・東京・パネル展～

緑のムーブメント

～みどりの環境都市・東京・パネル展～

（財）東京都公園協会が主催し、（社）ランドスケープコンサルタンツ協会をはじめとした造園界が協力して開催した「みどりの環境都市・東京・パネル展」について特集しました。

期間：平成21年4月1日（水）～4月25日（土）9：00～17：00（平日・土曜日）

場所：（財）東京都公園協会 緑と水の市民カレッジ3階 みどりの①プラザ（日比谷公園内）

主催：（財）東京都公園協会

後援：特定非営利活動法人東京オリンピック・パラリンピック招致委員会，東京都建設局，（社）日本造園学会，環境緑化新聞社

協賛：（社）ランドスケープコンサルタンツ協会，（社）日本造園建設業協会，（社）日本運動施設建設業協会，（社）東京都造園緑化業協会，（社）日本公園施設業協会東京支部，（社）日本造園建設業協会東京都支部

再度東京オリンピックを実現し、 環境都市創造をスタートさせよう。

ランドスケープコンサルタンツ協会 会長 大塚守康



いよいよ審判のときが近づいている。ここで、もう一度、われわれランドスケープアーキテクトの熱意をIOCに伝え、2016年、オリンピックを東京に迎えよう。

1964年に開催された東京オリンピックから45年が経ち、世界の状況は大きく変貌を遂げた。東京も、オリンピックにあわせて整備された都市インフラは、その後の経済成長を大いに牽引し、国際経済都市東京を造り上げた。そして今、世界は行き過ぎた経済社会への反省をこめて、環境都市の再生に取り組もうとしている。広くは地球環境問題としてCO₂を象徴的に扱う討議がなされているが、成長しすぎた経済都市はその裏に多面的な社会問題をはらんでいる。

ところで、スポーツは競い合うなかにも、お互いの存在を認識しあう健康な精神を生み出す。それはまた、健康な環境があってこそ実現される。健康な身体と精神、そしてそれらを支える健康な環境、これがわれ

緑のムーブメント

われの目指す環境都市の根源である。

大都市の社会問題は人間性の希薄化による心の病である。裕福な社会と個人の幸せとが一致しない。真の環境都市とは、個人が暮らすことへの幸せを感じられる都市であろう。1964年のオリンピックは立派な都市を造り上げたが、2016年のオリンピックは幸せに暮らせる都市をつくる契機である。

湾岸に計画されるメイン会場にあわせて海の森が創設される。先のオリンピック資産である神宮一帯の森、駒沢の森、それらを全て繋いで環境都市を象徴する緑のインフラを創ろう。それから枝葉を伸ばし、東京中を緑のインフラのネットワークで結び、健康な生活基盤を張り巡らそう。そして、その次のマラソン大会は42.195キロのコースのすべて、緑のなかを走り抜けてもらおう。

「みどりの環境都市・東京・パネル展」開催について

2016年東京オリンピック招致支援検討委員会副委員長・広報委員長 細谷恒夫

東京都はオリンピック招致を契機に、持続可能な環境都市への転換を目指しています。

パネル展はIOC評価委員の来日にあわせて4月1日～25日まで、日比谷公園の緑と水の市民カレッジで開催されました。特に、熊本県立大学理事長蓑茂壽太郎氏、明治大学大学院教授青山侑氏、関西国際大学教授佐藤由夫氏、東京大学大学院教授石川幹子氏の各先生方、さらに東京オリンピック招致委員会、東京都公園協会や造園・スポーツ施設関連団体のご協力を得ました。

1964年の東京オリンピックでは多くの環境遺産を残しました。その中でもワシントンハイツ返還によって実現した代々木森林公園や駒沢オリンピック公園では、新しい技術開発に挑戦し成果を得ました。

『みどりの環境都市・東京・パネル展』は1,030人の来場者があり、オリンピック開催意義や環境遺産の検証、2016年東京オリンピック招致計画、環境都市東京のあるべき姿等を提案し、『緑のムーブメント』推進においても有意義であったと考えています。

IOC評価委員が4月14日から20日にかけて東京を訪問しました。記者会見でムータワキル委員長は、オリンピックスタジアムから半径8km以内に競技会場の97%が収まるという東京の特長に対して、非常にコンパクトな計画だと高く評価しました。さらに、東京の熱意を高く評価し、「ビジョン、概念に感銘を受けました」「東京都や日本政府の強い熱意を感じています」「全体に非常に高い水準です」等の好印象を語りました。東京オリンピック開催の夢実現に“十分な手応え”があると思います。また、6月17日、18日、立候補している4都市がローザンヌのIOC本部で第1回目のプレゼンテーションを実施しました。出席したIOC委員からは、4都市とも大きな差はなかったとの声が聞かれ、各都市とも決め手がないまま「招致レース」は混戦が続き、勝負はロビー活動にかかっています。

本パネル展を通して、大きくの市民にオリンピック招致への関心と支持を得ることができました。みどりの環境都市づくりへの理解を深め、都市空間に緑を創出し、次世代に継承していく一助になったと考えています。

2016年東京オリンピックと環境遺産

刊 日本造園学会
会 長 茂 茂 寿 太 郎

作 者 団 体 : 景 観 の 環 境 計 画 協 会 以 外 多 数

環境遺産は、文化遺産や歴史遺産ほど一般的でない。また、文化遺産や歴史遺産では理想されず環境となるときになるのが負の遺産、すなわち環境にダメージを与え、それが負債として残ったものである。

この負の遺産については、第18回東京オリンピック（1964）の反省として既に論じている1）のでここでは触れず、正の環境遺産を生む2016年東京オリンピックを展望したい。

遺産というからには後世に評価されなければならない。そしてその評価は東京や日本の一地域に上まらずグローバルでなければならない。環境遺産たる空間を創り、時空を超えて多くの人々の共感を得る。これに挑む活力が TOKYOIC にはある。

「オリンピックと環境」と二つの用語をカッコで括ると開催都市の計画や会場のデザインが理想される。計画やデザインに「なるほど」と思わせるコンセプトがあるなら、その強みは優れた時代認識や鋭い地域認識がある。世界情報地誌の等高線は21世紀になって平らになり高低がなくなった。そこで時代認識等は、過去の経験より未来展望に高い関心が集まる。一方の地域認識では五大連の祭典らしい前衛的見方が必要だ。アジアやヨーロッパ、そしてアメリカ大陸など地球儀で一目させる地域認識である。



東京発は、アジアの地域認識で一貫したコンセプトであって欲しい。アジアモンスーンの環境遺産はサステイナビリティに裏打ちされたものになる。また世界の大都市として、各種の問題を豊富に経験した地域として東京を捉えたい。であるなら東京には次の二つの環境遺産がお似合いだと思う。

■ ヒューマンスケールの環境遺産

人間の尺度の環境を再興することである。半径8キロメートル以内に95%の施設を配置する「世界コンパクト」な会場計画を東京は提示した。私はその中に、その十分の一、半径800メートルの環境細胞を提案したい。地球環境危機と世界同時不況は、20世紀の自動車依存の都市に猛省を求めている。人間が住まう町はマンスケールでなく、10分徒歩の800メートルが基本となったヒューマンスケールで構成されるべきだ。東京は小さな公園が世界に類を見ないほどたくさんある町である。公園の総面積では世界の主要都市で最低の水準であるが、数は世界最多で量の級はともかく、それを種にヒューマンスケールの環境を取り戻すことで、魅力溢れる大都市となる。小さな公園が相互に連結されて徒歩スケールの公園系統を造りだす。そのような細細レベルでの都市地獄の書き換えが起こるのを期待したい。これがやがては、コンパクトシティの見本となる。自家用車がないと動かない都市ではなく、公共交通と徒歩や自転車と快速に移動可能な都市に塗り替える。パラリンピックも競技場だけで行われるのではなく、町の中で開かれる大会にしてほしい。そうすることでユニバーサルデザインも重要な人間環境都市が蘇る。2016年をそのキックオフの年にしたい。そうであるなら2016オリンピックは、東京に間違いなく正の環境遺産を生むはずだ。



■ 共（きょう）が生み出す環境遺産

二つ目の環境遺産は、公共概念の新しい動きに関連したものである。公と共に分け、公共を意欲して使い分けるのが近年の傾向である。私には、これまでの公主導が終わり、其の力を有権的に機能させた新たな社会構築の始まりに見える。NPOが無数に組織され、市民のボランティア活動が開き盛んな地域に次々と風穴を開け、長い暗行路の手足となっていた町内会が地域自治として活動するようになった。この潮流を的確につかむなら、今時のオリンピックも公だけの準備で済まないこと自明の理である。其の力が世紀の祭典でどう発揮されるだろうか。今は、開会式のマスケームや歓迎行事への参加だけの市民参画時代ではない。

40年以上前の東京オリンピックでは、明治神宮内外苑と駒沢オリンピック公園が主会場だった。前者は大正時代に其の力、すなわち国民の献金や献木でつくられた緑地空間、そのとき50年経った「人の造った森」を活用してであり、後者の駒沢は戦後復興の象徴となっており、以後の昭和の社会資本整備をリードした代表的都市公園である。マラソンコースとなった甲州街道のケヤキも道路事業で整備されたばかりで小さかった。二つの会場もケヤキ並木も現在は、東京を代表する緑に成長している。その第18回東京オリンピックを『世論の第二次聖戦』と捉えたもの2）がある。オリンピックを材料に世論の議論がなされているのも50年後の東京の特長で、シカゴやリオデジャネイロにはない。このような世論や輿論についての議論は、環境の計画やデザインに関わるランドスケープアーキテクトにとってはとても重要な「知でありセンス」だと思う。風のような世論ときちんと意見が合った議論との区別は、まちづくりや地域計画、そして公園のデザインを進める上で大変重要なことである。

もし東京のような成熟都市に新興都市とは違った評価が下されるとするのなら、一つとして環境への取り組みであり、二つには市民の反応だと思ふ。この両者が備わって成熟都市の独自性が見えてくるはずだ。

全世界で共通して迎える環境時代になって、成熟都市の独自性を公主導の環境緑化だけでなく環境市民が主体になって進めるボトムアップ型の「共の力による緑のプロジェクト」で表現したい。市民ワークショップを通じて環境市民との協働を経験している日本のランドスケープアーキテクトの期待はここでも高まる。

また、地球環境問題への対応がオリンピック開催地決定の大きな判断材料になっている。地球環境問題を一部のこととする認識は過去のものとなり、その範囲は地球全体に及んでいる。この状況認識から、東アジアのランドスケープアーキテクトが一堂に会して10年東交流を深めている日韓中ラウンドスケープフォーラムを次の新しいステージに進めなければならない。そのことと二巡目のオリンピック東京開催に向けての私たちの取り組みは重なり合うものと思う。

日本は、先の東京オリンピックの後に二つの冬季オリンピックを経験した。この経験も無にできない。冬季オリンピックでは、自然保護との調和が課題であったが、都市で開催される夏季オリンピックに比べて環境保護が議論されることは少なかった。IOCのアジェンダ21（1999）を受けての進化した取り組みが東京では欲しい。CO2の処理や環境モニタリングが当然として、それ以上のインパクトが欲しい。東京には、緑のストックがある。それらは文化的にも高い評価を得ている。これらの歴史文化的緑を其の力で活かす環境遺産宣言がコンパクトシティで開かれると素晴らしい。

1) MINOWA Toshihiro 2002: Effects of the 18th Olympic Games in 1964 on the Tokyo Townscape. The 5th International Landscape Architectural Symposium of China, Japan and Korea. Chinese Society of Landscape Architecture
2) 佐藤卓己 (2008) : 「輿論と環境」、新報社

IOC・JOCの環境方針

(社)ランドスケープコンサルタンツ協会

作 者 団 体 : 景 観 の 環 境 計 画 協 会 以 外 多 数

IOC (国際オリンピック委員会) の環境方針

■ **オリンピック憲章への「環境」の明記**
1990年代当初、サマランチ前IOC会長が、オリンピックムーブメントに「環境」を加えて、「スポーツ・文化・環境」を3本柱にすることを表明し、1994年バグリーで開催された第12回オリンピックコンGRESS (IOC創立100周年) で決議され、その後オリンピック憲章に「環境」の項目が追加されました。

■ **スポーツと環境委員会の活動**
1995年にバグリーで開催された第104回IOC総会で「スポーツと環境委員会」が設置され、委員長にバグリー・シュミット氏が就任しました。この「スポーツと環境委員会」は、その後委員会や地域セミナーの開催、2年に一度の「スポーツと環境世界会議」の開催などを通じて、国連環境計画 (UNEP) と連携しながら地球温暖化防止の啓発活動、環境に即したオリンピック大会の開催、スポーツ活動における省資源・リサイクル化などの様々な環境保全活動に取り組んでいます。

■ **オリンピックムーブメント・アジェンダ 21**
IOCは、1992年の「環境と開発に関する国連会議」で採択されたアジェンダ21 (21世紀に向けての行動原則) に則り、1999年にリオデジャネイロで開催された第3回IOCスポーツと環境世界会議で、次のような項目からなる「オリンピックムーブメント・アジェンダ 21」を採択しました。現在、これに基づいてスポーツ界の環境保全活動が推進されています。

- 持続可能な開発に向けてのオリンピックムーブメントの行動計画
 - ・オリンピックの価値及び持続可能な開発のための行動
 - ・持続可能な開発概念のスポーツ方針への取り込み
 - ・人の個性振興及び啓発
 - 持続可能な開発のための資源の保全及び管理
 - ・環境保全区域及び田園地帯の保護
 - ・スポーツ施設
 - ・水の管理
 - ・生物圏の質および生物多様性の維持
 - 主要グループの役割強化
 - ・女性の役割の向上
 - ・若者の役割の向上
- など20項目

JOC (日本オリンピック委員会) の環境方針

■ **環境基本理念**
JOCは、2005年に始まった温室効果ガス削減のための国民運動「チーム・マイナス6%」に開始当初から参加し、協力してきました。また、2006年には次のような環境基本理念を定め、環境省とも連携して環境保全活動に取り組んでいます。

JOCは、オリンピックムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC事務所の環境への取り組みを実施し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより、地球環境の保全に貢献する。

■ **スポーツ環境委員会及び各団体の活動状況**
JOCは、2001年に「スポーツ環境委員会」を設置して「スポーツと環境・地域セミナー」などを開催してきたほか、JOC加盟団体とともに次のような環境アクションに継続的に取り組んでいます。

- 啓発活動
 - ・JOC横断幕、ポスター展示
 - ・パンフレット配布
 - ・スポーツアンバサダー活動
 - ・セミナー、会議、発表会など啓発等
- 実践活動
 - ・公共交通機関の利用促進
 - ・環境配慮印刷の実施
 - ・グリーン購入の実施
 - ・ゴミの分別回収等

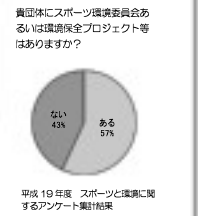
■ IOC、JOCの環境アクション展開組織



■ JOCの環境スローガンと活動状況

Think Globally Act Locally
環境問題と向き、近所から行動する。

環境と持続可能な開発において、重要でない行動はない。たとえごく小さな行動でも私達の未来のために大切である。そして、それは子供たちの未来でもある。オリンピックと同じく、参加することに意義があるのだ。(IOCスポーツと環境、競技別ガイドブック第5章より)



■ 第11回IAAF世界陸上選手権大会での記念植樹



■ JOC加盟団体によるスポーツと環境についての啓発・実践活動



オリンピック招致とみどりの環境づくり

—2016年 オリンピックを機会に 水とみどりの東京実現を—

昭和大学大学院
教授 青山 悦
行先：国土・環境省研究部、緑生活

オリンピック招致に向けて



アトランタのオリンピック記念公園

東京は、1964年に一度オリンピックを開催しているのに、また開催都市になることができるのか、という疑問をもつ人がいると思います。オリンピック憲章は、人間の尊厳、平和な社会を目標とし、国や個人に対する差別に反対しています。このオリンピック精神にビタリの開催コンセプトであれば、2回でも3回でも開くことができます。

逆に、次回2012年オリンピックの開催が決まっているロンドンが戦後2回目、通算3回目の開催です。戦後初めて立候補したパリに競り勝って開催都市に選ばれました。ロンドンの計画は会場計画も覆れていましたが、荒廃した工場地帯で開催することによって周辺の低所得者に雇用、福祉、教育をもたらすという開催コンセプトがオリンピック憲章に合致したから選ばれたという評価があります。

ちなみに、1996年のオリンピックは、百年前の近代オリンピック第一回開催地であるアテネに競り勝ったアトランタで開催されました。オリンピックの有力スポンサーの当社があるからともなわれましたが、米国の公民権運動が盛んだった時期で、そのシンボリックな都市であったことが選定理由のひとつであったと言われています。

いま、世界では地球温暖化に伴うさまざまな問題が噴出してきています。日本は石油やウランなどエネルギーを産出しないこともあって、産業面でも生活面でも省エネルギー化に努力してきました。

日本の首都東京が「低カーボンでみどりあふれる持続可能な都市」を世界に発信するためオリンピックを開催することは、まさにオリンピック憲章にビタリであるといえるでしょう。地球温暖化による災害が難民を増やし国際紛争を増やすことが危惧されているからです。

都市における水とみどりの役割

分類	効果
インフラ	やすらぎ 高齢者 高齢
施設	スポーツ レクリエーション 散歩
コミュニティ	交流 出会い
環境	地球温暖化対策
防災	被害軽減 避難場所
経済	イベント 観光



江戸時代からの名物のひとつ 向島百花園

東京には、江戸時代から名庭園がありましたが、戦後も努力して公園をつくってみどりを増やしてきました。しかし、まだまだ市街地にみどりが少ないことは確かです。

現在、東京にあるみどりは、①江戸時代の大名邸敷地がそのまま維持されて残されたもの、②公園として用地買収をして新たに設置したもの、③都市機能更新にもない、ビル等の建設の際に公共空地として緑地提供されたものなどが中心です。細分化された低密度地帯においてはみどりが少なくなっています。

今後は、2016年東京オリンピック開催を機会に①公園・河川・水路、②屋上緑化・壁面緑化・道路緑化・校庭芝生化、③都市機能更新・複合利用・立体化地下利用（地盤上部公園化）など、さまざまな都市計画手法を駆使して水とみどりを増やしていく努力が求められています。

水とみどり豊かなオリンピックスタジアム予定地 晴海

オリンピック招致シンポジウム2006・2007

—ランドスケープコンサルタンツ協会の招致活動—

(社)ランドスケープコンサルタンツ協会

行先：国土・環境省研究部、緑生活

シンポジウム開催趣旨

わが国はこれまで数多くの大規模な国際スポーツ大会を開催してきました。これらの大会は、わが国のスポーツ環境と都市環境の整備に大きく貢献するとともに、世界に多くのメッセージを発信しました。今回東京はオリンピックの招致（2016年）を表明しました。このためには、国民と国際社会が共感する「世界の未来に夢と希望を与える大会のコンセプト」を明示し、具体的なビジョンと国民を挙げての幅広い運動の展開が必要です。

緑の環境づくりに携わるわたくし達は、この要請を受け止め、国際的なスポーツ振興、普及発展に寄与するとともに、それを契機とする環境都市の創造に積極的な役割を果たしていきたいと考えます。



2006 シンポジウム

ランドスケープから見た「スポーツと環境」大規模国際スポーツ大会招致に向けたランドスケープからの提言

東京ビッグサイト会議棟102会議室 平成18年5月24日(水)
13:00~16:00 | 司会 ランドスケープコンサルタンツ協会 有賀一郎
開会挨拶 (社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長 大塚守康
シンポジウム開催の経緯説明 ランドスケープコンサルタンツ協会 総谷恒夫
基調講演 「ランドスケープと大会開催都市の環境」 熊本県立大学理事長 兼 有賀太郎
コーディネーター 賛助者代表 宮城俊作
パネルディスカッション
ソウル五輪シンクロ・デュエットメダリスト：田中ワルフェ京
青山学院大学教授 社会学連携研究センター所長：井口典夫
ランドスケープアーキテクト：宮城俊作
ランドスケープアーキテクト：上山良子
財)東京都公園協会常務理事：住吉泰男
宣言文発表 ランドスケープコンサルタンツ協会 佐藤康雄
開会挨拶 司会

主催：(社)ランドスケープコンサルタンツ協会、スポーツと環境シンポジウム実行委員会と
エコ・グリーンテック実行委員会
後援：環境環境化新聞社、(社)日本造園学会
社)東京都造園緑化業協会、(社)日本公園施設業協会東京支部、(社)日本造園建設業協会
関東・甲信越支部、(社)日本造園建設業協会東京支部、日本運動施設建設協会、日本
水産建設協会(株)体育施設出版、東京ガーデンズエアー実行委員会、NPO法人 渋谷
谷、青山景観整備機構



2007 シンポジウム

「みどりの都市づくりを考える」東京オリンピックの夢をもう一度

東京ビッグサイト西4ホール内 平成19年5月23日(水)
A. 午前の部 10:00~12:30 司会CLA：有賀一郎
開会挨拶：(社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長 大塚守康
講演：環境オリンピックと造園家
エコ・グリーンテック実行委員長(社)日本造園学会副会長 浦井史郎
講演：校庭芝生の効用と課題(東京中の校庭が芝生に)
日本大学生物資源科学部専任講師 旗嶋健一郎
B. 午後の部 13:30~17:00 司会CLA：岩谷達之
基調講演：都市の未来を考える
明治大学教授、前東京都副知事 青山やすし
概要説明：風の道(五輪軸)構想とは？
CLA東京オリンピック招致支援特別委員 萩野一彦
概要説明：10年後の東京〜東京が変化する〜
東京都知事事務局 参事 小林清
講演：東京オリンピック再びへの挑戦
NPO法人東京オリンピック招致委員会幹事 井口典夫
開会挨拶：(社)ランドスケープコンサルタンツ協会 総谷恒夫

主催：(社)ランドスケープコンサルタンツ協会(運営：ランドスケープコンサルタンツ協
会関東支部)エコ・グリーンテック実行委員会
後援：(社)日本造園学会、日本造園学会、(社)日本公園緑地協会、(社)公園緑地管理財団、
(社)都市緑化基金、(財)都市緑化技術開発機構、(財)日本造園建設業協会、(財)日本緑
化センター、造園・環境緑化産業振興会、(社)日本造園建設業協会、(社)日本造園協
会、(社)日本造園組合連合会、(社)日本公園施設業協会、(財)造園緑化保全協会、日
本運動施設建設協会、街路樹診断協会、(財)東京都公園協会、(社)東京都造園緑化
業協会、NPO 渋谷、青山景観整備機構、日本水産協会、環境緑化新聞社 (順不同)



オリンピック招致シンポジウム2008

—ランドスケープコンサルタンツ協会の招致活動—

(社)ランドスケープコンサルタンツ協会

主催：(社)ランドスケープコンサルタンツ協会 編集：一部、西川肇之、西川肇之

東京オリンピック招致に英知を終結、2006年から開始したシンポジウムは、第3回目

平成20年10月29日、13:00~17:00に日比谷公園、水と緑の市民カレッジにおいて、シンポジウム「スポーツと環境都市の未来を考える」をランドスケープコンサルタンツ協会主催で、開催いたしました。

シンポジウムでは、最初に石川幹子東京大学大学院工学系研究科教授が、「五輪開催と東京の水と緑の骨格づくり」について、続いて雑賀真NPO法人東京オリンピック・パラリンピック招致委員会事務次長が「2016年東京五輪競技大会の概要」について基調講演をおこないました。

その後、石川教授をコーディネーターとして、雑賀氏のほか、小口健蔵東京都建設局公園緑地部公園計画担当部長、佐藤由夫日本自由時間スポーツ研究所長、大塚守康(社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長をパネリストに加え、熱気あるパネルディスカッションが行われました。小口氏からは行政の立場から緑や景観の施策について、佐藤氏からはスポーツの視点からの環境づくりについて、大塚氏からはランドスケープコンサルタンの代表としての報告がなされ、会場からも意見が集められ披露されました。

このCLA主催の3回目のシンポジウムでは、未来に押しがしとなるようなオリンピック開催として、夢のある方向性が確認されました。

シンポジウム「スポーツと環境都市の未来を考える」開催団体
主催：(社)ランドスケープコンサルタンツ協会
後援：東京都建設局、(NPO)東京オリンピック・パラリンピック招致委員会、(社)日本造園学会、(社)日本公園緑地協会、(株)インテリテック
協賛：(社)日本造園建設協会、関東甲信越支部、(社)日本造園建設協会東京支部、(社)日本造園組合連合会、(社)日本公園緑地協会東京支部、(社)日本造園建設協会、(社)東京都造園緑化協会、(有限責任中継法人)日本運動施設管理協会、造園・環境緑化産業振興会、東京ガーデンシェイプ2008実行委員会、(NPO)渋谷・青山景観振興会

- シンポジウムプログラム
- 司会：・有賀一郎
 - 1、開会挨拶 (社)ランドスケープコンサルタンツ協会・細谷恒夫
 - 2、1基調講演「五輪開催と東京の水と緑の骨格づくり」
東京大学大学院工学系研究科教授・石川幹子
 - 2基調講演「2016年東京五輪大会の概要」
NPO法人東京オリンピック・パラリンピック招致委員会 事務次長・雑賀真
 - 3、パネルディスカッション コーディネーター：石川幹子
パネリスト：小口健蔵、佐藤由夫、大塚守康、雑賀真
東京建設局公園緑地部公園計画担当部長・小口健蔵
日本自由時間スポーツ研究所代表、関西造園大学教授、佐藤由夫
(社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長・大塚守康
 - 4、閉会挨拶 (社)ランドスケープコンサルタンツ協会・枝吉茂雄



オリンピック・パラリンピックには人を変え、社会を変えたい。雑賀真
オリンピック・パラリンピックの持つ力を次世代の日本人に継承してもらいたい。雑賀真



パネルディスカッションの様子



石川幹子氏 雑賀真氏 小口健蔵氏 大塚守康氏



1964年東京オリンピック園地整備参加記念の記念品、今でも大切に 佐藤由夫氏



あゝ感動をもう一度
3回目のシンポジウムになり関心が高まって来たことがわかる。熱心に話を聞く参加者、席は混雑

東京オリンピック・パラリンピック招致支援エンブレム花壇

—日比谷公園ガーデニングショー実行委員会の招致活動—

主催：(社)ランドスケープ 編集：

◆2007エンブレム花壇のデザイン



2007招致支援エンブレム花壇展示
製作者 日比谷公園ガーデニングショー実行委員会
場所 日比谷公園第二花壇内
サイズ 縦1.4m×横1.420m
花種 赤・黒・黄色・青 ピオラ 緑 パセリ
数量 合計 約4,000ポット
展示期間 2007年10月20日(土)~28日(日)

◆ぼくたち・わたしたち皆で花壇を仕上げました



招致支援エンブレム花壇制作活動の趣旨

東京都は、2007年9月に国際オリンピック委員会に2016年の夏季オリンピック・パラリンピック開催都市として立候補をしました。2008年6月に、正式立候補都市として東京、シカゴ、リオデジャネイロ、マドリードの4都市が、IOCにより承認されました。2016年に開催される第31回オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市は、2009年の10月2日にコペンハーゲンで開催される第121次IOC総会で決定することになっています。わたし達昭和に生きた日本人の多くは、昭和39年の東京オリンピックのすばらしい感動の思い出をもって、日本の高度成長の社会を支えてくることができました。わたし達は、これからの若い人達にも、オリンピック・パラリンピックの感動を持って、新しい日本を担ってほしいと思っています。

前回の東京オリンピックの時には、代々木公園と駒沢公園などの環境遺産が東京に残される一方、河川の上には高速道路がかけられるなど負の環境遺産も多く残されました。(社)ランドスケープコンサルタンツ協会は、今回のオリンピック・パラリンピックの東京開催を契機として、前回の負の環境遺産を解消して、東京を新しい時代にふさわしい緑と水の環境都市として再構築し、オリンピック・パラリンピック開催したいと考え様々な提案と活動を行って来ました。

日比谷公園ガーデニングショーでは、ガーデニングショー実行委員会に「招致エンブレム」を花でデザインした花壇の制作を提案しました。花壇は、2007年と2008年の日比谷公園ガーデニングショーに日比谷公園2花壇に制作し展示しました。花壇の制作は、多くの都民・市民とともに都内の保育園の園児連の協力で作りました。最終日には、来場者の招致支援のカンパを募り、5色のピオラをセットにして配布しました。

◆花配りの様子



◆新宿地下広場の展示



◆雨の中で花壇の仕上げをしています



◆2008エンブレム花壇のデザイン



2008招致支援エンブレム花壇展示
製作者 日比谷公園ガーデニングショー実行委員会
場所 日比谷公園第二花壇内
サイズ 縦2.0m×横2.0m
花種 赤・黒・黄色・青 ピオラ 緑 パセリ
数量 合計 約10,000ポット
展示期間 2008年10月25日(土)~11月2日(日)

◆子供たちの仕上げを眺めて準備完了です





日本だから、できる。 あたらしいオリンピック!

2016年 東京オリンピック・パラリンピック 大会理念 / 大会コンセプト

大会理念

平和に貢献する 世界を結ぶ オリンピック・パラリンピック

- 平和の祭典オリンピック・パラリンピックを、世界で唯一戦後60年一貫して平和を貫いてきた日本で開催することで、平和の尊さを世界に訴えます。
- 次代の世界を担う若者たちが主役となるオリンピック・パラリンピックを通じて、世界平和を希求する日本人の心を伝えます。

大会コンセプト

世界最高の環境 ヒーローたちの檜舞台

- 世界の都市の中でも最も先駆的な取組をしている東京から、地球環境の大切さを世界に発信します。
- コンパクトな計画の下、参加するすべての選手が自己最高記録を出し得る世界最高の「檜舞台」を用意します。

**2016年東京オリンピック・パラリンピックは、
日本人が心をひとつにして日本を結び、そして世界を結ぶ**

2016年東京オリンピック・パラリンピックが目指すもの

- 平和の尊さを世界に発信します!
- 環境を最優先した大会を目指します!
- 子どもたちにも大きな夢と感動を与えます!
- 世界一コンパクトな大会です!

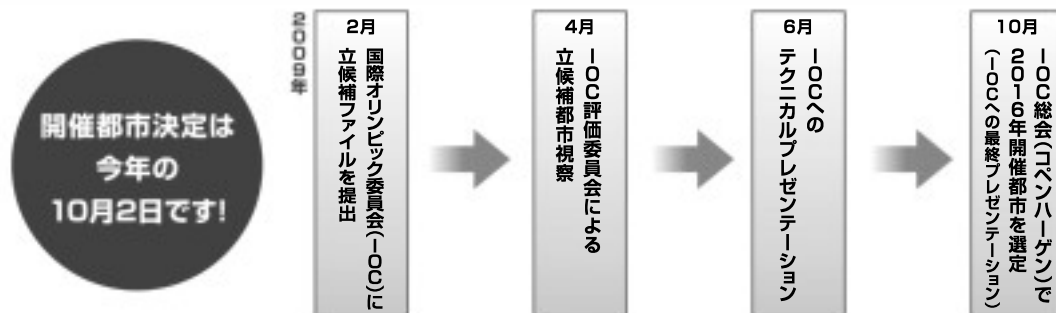
日本中が元気に! ~大きな経済波及効果~

東京オリンピック・パラリンピック開催による経済波及効果(生産誘発額)は、

全国で **約2兆9,400億円!** ※平成21年1月東京オリンピック・パラリンピック招致本部試算

東京オリンピック・パラリンピック開催は日本中を元気にします!

2016年 東京オリンピック・パラリンピック招致 スケジュール

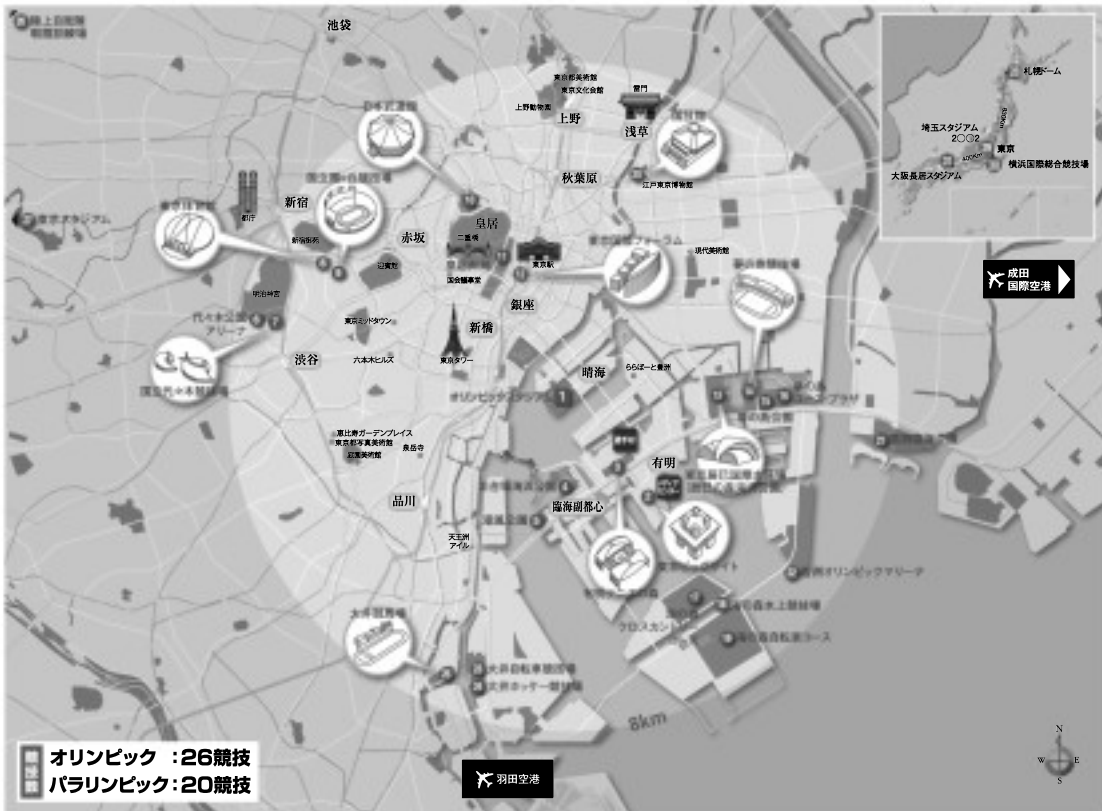




日本だから、できる。 あたらしいオリンピック!

2016年 東京オリンピック・パラリンピック競技大会計画 ～世界一コンパクトなオリンピック・パラリンピックをめざして～

開催期間	オリンピック 2016年7月29日(金)～8月14日(日) <small>日本全国の子供たちの夏休み期間や気象条件などを勘案して設定しました。</small> パラリンピック 2016年8月30日(火)～9月11日(日) <small>オリンピック閉会式終了後、興奮さめやらぬ中で、障害のあるトップアスリートによる世界最高峰の競技大会が開幕します。オリンピックの感動を引き継ぎ、子どもたちに、そして全ての人々にスポーツの素晴らしさを届けます。</small>
競技会場配置	発達した交通インフラや1964年大会の会場利用など、東京のメリットを最大限に活かして、オリンピックスタジアムを中心とした8キロ圏内に、射撃とサッカー予選会場を除く全ての競技会場を配置。東京の真ん中でIOCが推奨するコンパクトな競技会場配置を実現します。

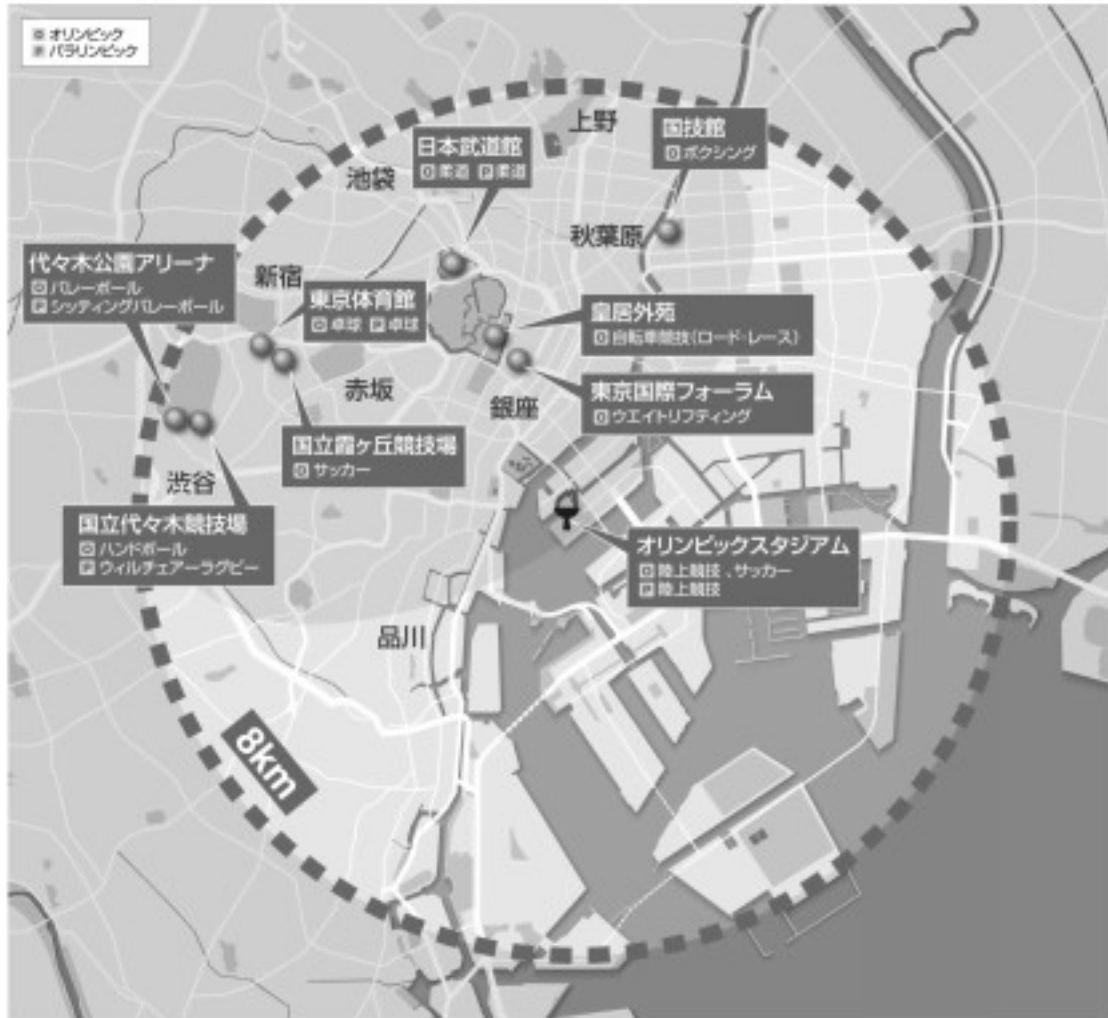


オリンピック競技会場		パラリンピック競技会場		
① オリンピックスタジアム ●屋上競技 ●サッカー ② 東京ビッグサイト ホールA: ●レスリング ●テコンドー ホールB: ●フencing ●空手 ③ 有明テニスの森アリーナ ●テニス ④ お台場海浜公園 ●テニスコート(10キロメートル) ⑤ 潮風公園 ●ビーチバレーボール ●バドミントン ⑥ 代々木公園アリーナ ●バレーボール ⑦ 国立代々木競技場 ●ハンドボール ⑧ 東京体育館 ●ボクシング ⑨ 国立競技場 ●サッカー ⑩ 日本武道館 ●柔道 ⑪ 皇居外苑 ●自転車競技(ロード・レース)	⑫ 東京国際フォーラム ●フリースタイルスキー ⑬ 東京辰巳国際水泳場(辰巳の森海浜公園) ●水泳(競泳/水球/水泳シンクロナイズドスイミング) ●水泳(競泳/水球) ⑭ 夢の島競技場 ●柔道(階級別/柔術) ●柔術(階級別/柔術) ●柔道(階級別) ⑮ 夢の島公園 ●アーチェリー ⑯ 夢の島ユース・プラザ アリーナA: ●バドミントン ●近代五種(フェンシング) アリーナB: ●バスケボール ●バレーボール アリーナC: ●体操(器械/新体操/トランポリン) ⑰ 海の森グランドリーコース ●高飛び(クロスカントリー) ⑱ 海の森水上競技場 ●ボート ⑲ 海の森水上競技場 ●カヌー(フラットウォーター) ⑳ 海の森自転車コース ●自転車競技(マウンテンバイク/BMX) ●自転車競技 ●自転車競技 ㉑ 葛西臨海公園 ●カヌー(スラローム)	① 若洲オリンピックマリーナ ●セーリング ② 大井自転車競技場 ●自転車競技(トラック・レース) ③ 大井ホッケー競技場 ●アイスホッケー ④ 大井競馬場 ●近代五種(馬術、ランニング、射撃) ●馬術 ⑤ 陸上自衛隊朝霞訓練場 ●射撃(ライフル射撃/グレネード射撃) ⑥ 東京スタジアム ●サッカー ⑦ 札幌ドーム ●フットボール ⑧ 埼玉スタジアム 2002 ●サッカー ⑨ 横浜国際総合競技場 ●サッカー ⑩ 大阪長居スタジアム ●サッカー	① オリンピックスタジアム ●射撃 ② 東京ビッグサイト ホールA: ●バドミントン ●バレーボール ●テニス ●フencing ●空手 ●柔道 ●柔術 ●柔道(階級別) ホールB: ●バレーボール ●バドミントン ●テニス ●フencing ●空手 ●柔道 ●柔術 ●柔道(階級別) ③ 有明テニスの森アリーナ ●テニス ④ お台場海浜公園 ●自転車競技(ロード・レース) ●自転車競技(ロード・レース) ●自転車競技(ロード・レース) ●自転車競技(ロード・レース) ⑤ 代々木公園アリーナ ●バレーボール ●バドミントン ●バレーボール ⑥ 国立代々木競技場 ●ハンドボール ●ハンドボール ●ハンドボール ⑦ 東京体育館 ●ボクシング ⑧ 日本武道館 ●柔道 ⑨ 東京辰巳国際水泳場(辰巳の森海浜公園) ●水泳	① 夢の島競技場 ●射撃 ② 夢の島公園 ●アーチェリー ③ 夢の島ユース・プラザ アリーナA: ●バレーボール ●バドミントン ●バレーボール ●テニス ●フencing ●空手 ●柔道 ●柔術 ●柔道(階級別) アリーナB: ●バレーボール ●バドミントン ●バレーボール ●テニス ●フencing ●空手 ●柔道 ●柔術 ●柔道(階級別) アリーナC: ●バレーボール ●バドミントン ●バレーボール ●テニス ●フencing ●空手 ●柔道 ●柔術 ●柔道(階級別) ④ 海の森水上競技場 ●ボート ⑤ 若洲オリンピックマリーナ ●セーリング ⑥ 大井自転車競技場 ●自転車競技(トラック・レース) ⑦ 大井ホッケー競技場 ●アイスホッケー ●アイスホッケー ●アイスホッケー ⑧ 陸上自衛隊朝霞訓練場 ●射撃



日本だから、できる。
 あたらしいオリンピック!

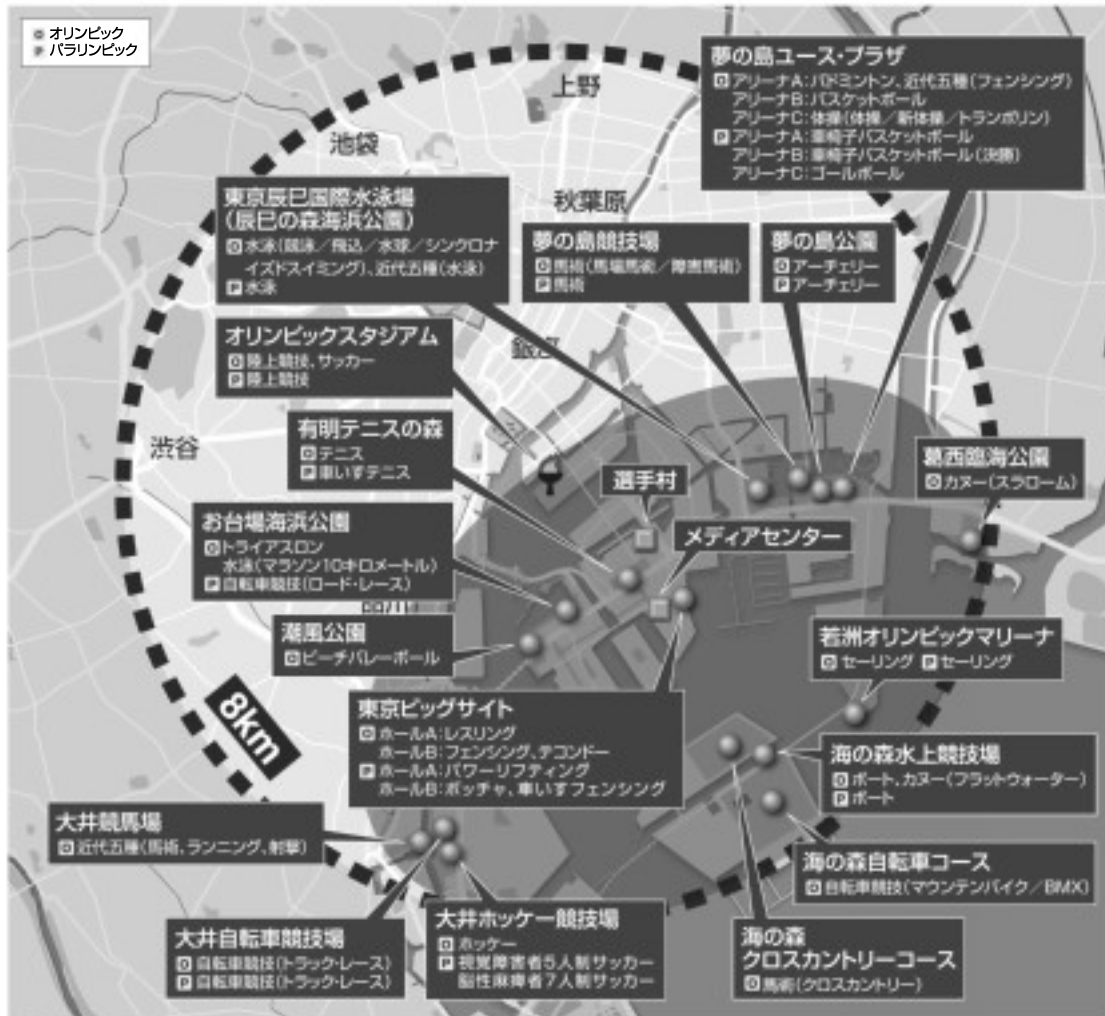
ヘリテッジ(遺産)ゾーン





日本だから、できる。
 あたらしいオリンピック!

東京ベイゾーン

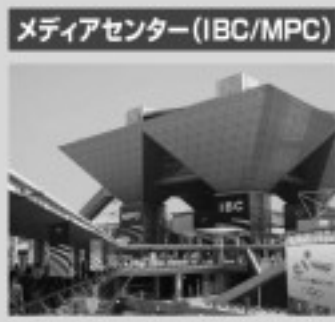
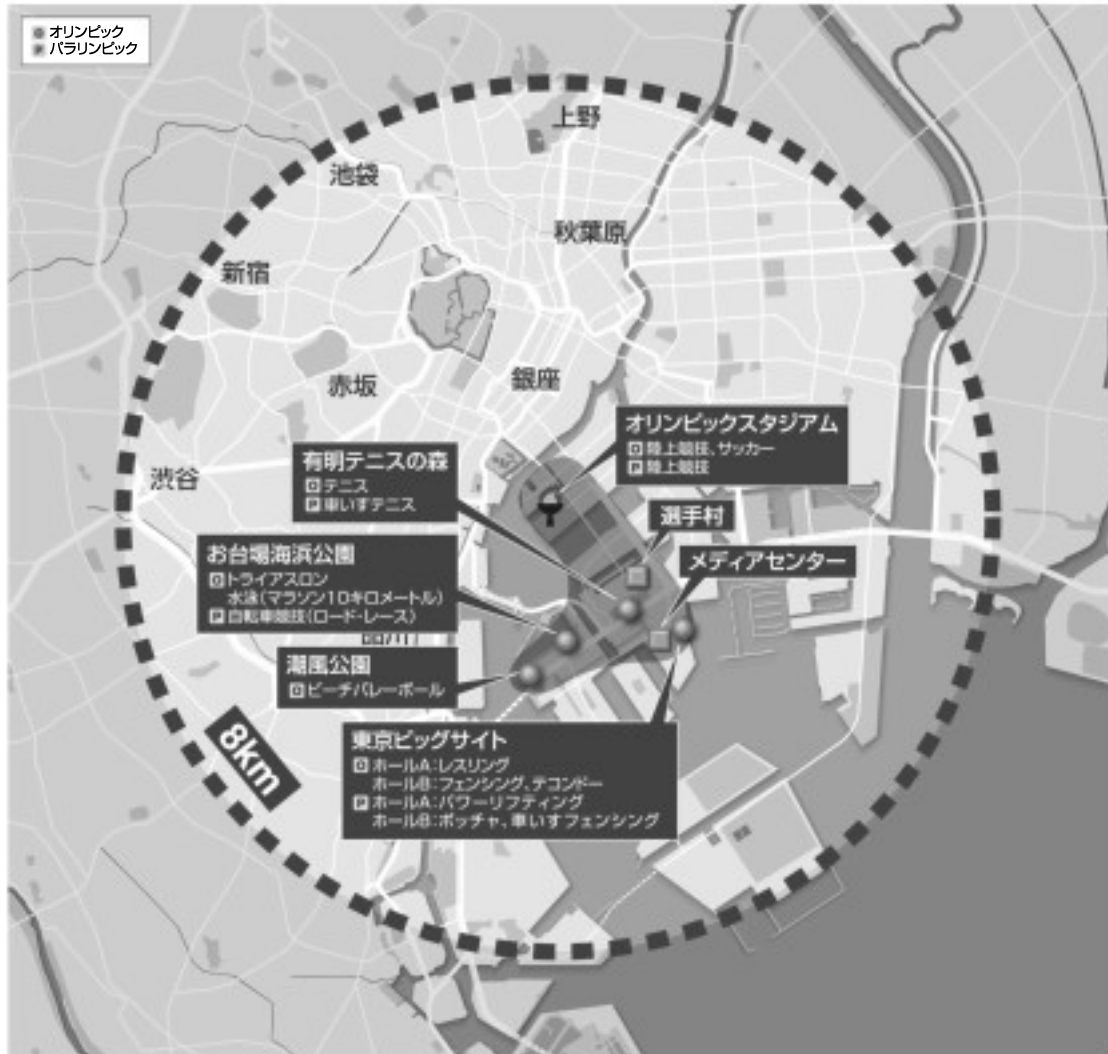




日本だから、できる。
 あたらしいオリンピック!

結びクラスター

ヘリテッジ(遺産)ゾーンと東京ベイゾーンを結ぶクラスター(会場群)



オリンピックと環境遺産

●古代オリンピックは世界遺産

古代オリンピックは、古代ギリシャ時代の文化として培われ、数多くの遺産を今日に伝えています。約1500年後の1896年にフランスのクーベルタン男爵らの提唱により、復活したのが近代オリンピック第1回アテネ大会です。

1989年には、古代オリンピックの遺跡群が文化的な遺産として「世界遺産」に登録され、オリンピックの聖地として再び世界中から注目を浴びています。



第1回アテネ大会のメイン競技場「パネリスティオスタジウム」。写真はすべて佐藤由夫の撮影

●近代オリンピックと環境遺産

オリンピックは、スポーツの発展や世界平和に貢献するだけでなく、開催国や開催都市の都市基盤整備や生活水準の向上、文化の発展等、様々な波及効果をもたらします。

競技施設だけでなく、オリンピックを契機に建設された都市機能や関連施設群は、その時代における先端技術の集大成であり、都市と文化の新たな方向性を世界に向けて指し示しています。4年に1回開催される毎に、新たな地域においてこれまで眠っていた都市の環境遺産を甦らすとともに、オリンピック精神に導かれた新しい環境を創造してきました。

環境遺産の創造

●オリンピックがもたらしたもの

例えば、第20回ミュンヘン大会（1972年西ドイツ：当時）では、緑の環境との調和、ヒューマンスケールのオリンピックをテーマとした「ミュンヘンオリンピック公園」を整備し、今目的評価を先取りした優れた環境を残しました。飛行場跡地に整備されたこの公園の美しい丘は、第二次世界大戦で破壊された都市の瓦礫を集めて造成し、ボートが浮かび水鳥が遊ぶ人工池にはバイエルン王朝時代の夏の離宮からの疎水を引き込み、豊かな水を湛えています。公園の景観に溶け込むオリンピックスタジアムや各種競技施設は、都市空間と公園、スポーツ施設の新しいあり方を約40年前に提示したものです。

●環境遺産を次世代へ

人類最大の祭典として約200ヵ国・地域のトップアスリートが繰り広げる最高のパフォーマンスは、世界中の人々に生きる力を与え、感動を与えています。その舞台は歴史を飾るに相応しい環境が求められます。

21世紀のオリンピック大会は、新たな使命として環境問題に関心をもち、その啓発や実践を図ることが求められています。持続可能な開発を行い、大会のよい遺産を開催国として開催都市に残さなくてはなりません。



ミュンヘンオリンピック公園に築かれた丘と人工池。丘には第二次世界大戦で破壊された都市の瓦礫が埋められている。

オリンピック・パラリンピックを東京で開催し、施設や自然、都市、人そしてスポーツによって創造される新しい環境遺産を次世代に託すことに意義があります。



ミュンヘンオリンピック公園の競技施設群。手前から屋内プール、体育館、陸上競技場、自転車競技場。

昭和の環境遺産としての駒沢オリンピック公園

(株)ランドスケープコンサルタンツ協会

本業部員 駒沢市創設特別顧問 佐藤由夫

マスタープラン 高山英華、横山光雄、森脇龍雄
造園設計・オリンピック施設建設事務所
面積 412,332㎡
竣工 昭和39年7月25日

●公園の誕生経緯

駒沢オリンピック公園は、昭和39年に開催したオリンピック東京大会の第二会場として誕生し、後に開かれた総合スポーツセンター、レクリエーションの場所、オリンピック記念公園として建設しました。

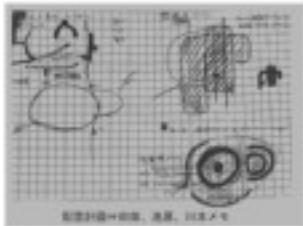
旧駒沢ゴルフ倶楽部池、昭和17年に防空緑地に指定、昭和26年以降東京都駒沢総合運動場、オリンピック東京大会決定とともに、都市計画事業決定し都市公園整備を行いました。
オリンピック公園として整備し、東京大会を記念する運動公園。

●公園計画・プロセス

●駒沢オリンピック公園は運動公園として計画。城西、城南地区における市民のレクリエーション、スポーツの中心地として整備しました。

●公園の正面づくりと道路の連携強化が課題になりました。

- ・アクセス・配置計画⇒田畑、池原、川本メモ
- ・補助49号線・・・
- ・施設間相互の動線計画⇒プランチ型とサーキュレーション型の折衷型になりました。



●施設配置計画

●軸線構成手法とサーキュレーション
中心となる施設軸を設定、陸上競技場、中央広場と体育館、直行軸に屋内競技場、オリンピック記念塔、補助競技場を配置しました。

●景観構成

- 全体の勢田気を出さるだけ奥からかくする重点緑化。
- 施設の各々の高さは、中央広場面を基準にこれより高く高くなるものは、陸上競技場、体育館、管制塔、屋内球技場とし、他は全て中央広場面以下としました。
- 空中から見下ろす視線を大事にしました。

●修景計画

●修景計画方針

- 競技施設が中央広場を中心に配置。公園全体の植栽修景は、競技施設とのバランスを考慮しました。

修景計画のテーマ

- ①森に囲まれたスポーツセンター、②巨大樹木の使用、③材料の事前確保、④巨大建築に対する修景手法を採用、⑤日本の郷土植物を主とする、⑥サッカー、ホッケー用芝生フィールドを整備。

●昭和の環境遺産として

都市公園で発表された前島康徳氏の小論より、東京における勝れた、公共的な環境遺産として以下の3点をあげています。

- ①明治36年に完成した最初の西洋式公園としての日比谷公園。
- ②大正15年に完成した明治神宮内苑と外苑。
- ③大正12年の関東大震災後の帝都復興事業による復興3大公園と小公園。

完成当時、駒沢オリンピック公園は、戦後の公共造園の頂点に達し昭和の環境遺産ともいえるものになりました。



(資料提供：三橋 一也)

東京オリンピックの意義と代々木公園

(株)ランドスケープコンサルタンツ協会
木村 弘

作業記録：(株)総合設計研究所 石村尚徳

■序 東京オリンピック開催

当時、国民間に戦後体制からの脱却や国民自身のアイデンティティの確立を求める意欲、例えば安保競争、米軍基地の返還などが高まっており、その象徴がオリンピック競技大会開催でありました。オリンピック競技大会は、スポーツ振興とまちづくりのために迎えられたという点以上に、敗戦を乗り越えて世界の人々とともに、未来に向かおうとする国民の意欲が結集し、これを世界に向けて発信し、世界がこれを受け入れた結果の表れと言うべきでありましょう。その成果は、オリンピック競技において、かつて無かった閉会式での各国選手との交流が盛んに物語っています。

■新設か既存利用かの選択

当時の東京のまちづくりの動向は、既存の再編と新空間の創出との間で揺れていました。大会も同様、新設か、既存利用かの選択の結果成立した計画でありました。

この選択の中でまちづくりにおける重大な選択が米軍基地跡を利用した選手村の設置でありました。「新緑キャンパスドレーク」、「代々木フロンティア」のうち、後者に決定され、この選択により、次のように大きな効果を現在にもたらしています。

- 首都の中心にあった米軍の影が無くなったこと
- 選手村跡地が公園化するようになったこと…神宮の森と一体になった公園の成立
- 首都高速道路が選手村に至る環状線となり都心を巡る高速道路体系が早期に成立したこと。

■東京に生み出された緑の環境資産 選手村

選手村の宿舎は既存の米軍住宅をほぼそのまま整備して利用して男子村と女子村とし、診療所、娯楽施設、郵便局防署等も既存の施設を改修して使用しました。練習競技場は400m陸上競技場（織田フィールド）、投てき練習場が新設されたほか、植栽による修景、緑陰などが施されて選手のリラックスの場となりました。

選手村時代は渋谷口は、当時全く裏口でありましたが、現在は代々木公園の玄関としてにぎわっており、公園の緑がまちに溶け合い、公園空間がただの補栽地ではなく、まさに特有の親しみ深い空間を作り出していることができます。

■ランドスケープアーキテクトによる技術開発

●競技用芝生

オリンピック競技に適した芝生造成を目指して、芝種類の選抜（ヒメコウライシバを選定）、芝床構造、補栽法、供給体系等の研究が、故本多伸博博士の指揮の下に進められ、その結果をもって各競技会場の芝生が造成されました。

●競技場走路舗装

オリンピック競技に適し、降雨に強い走路を作ることを目指して走路舗装材の研究が故新田伸三博士の指揮の下に進められ、競技場ではネオHアンツーカーを用いた舗装が採用されて、国立、駒沢陸上競技場に用いられていました。管理の容易な石油製品の全天候舗装材が導入されるまで、各地の主要な競技場のモデルになっていました。



- 5 Olympic Sites (※2)
既存施設を改修しつつ必要な範囲で新設する方針となつた。
主競技場：明治公園内の国立競技場
体育館/水泳場：代々木フロンティア内に新設
射撃上競技場/射撃会館/風球/ホッケー競技場：駒沢運動公園内に新設
秋刀魚ラグビー場改修
高砂競技場：高砂公園整備・遊具場、芝草場新設等
馬術競技場(野外乗馬)：南横井沢地蔵ヶ原一帯
乗馬場：伊豆遊楽第一競技場に改修、ヨット：芝ノ島に新設
カヌー競技場：伊豆湖に500mコース設置、付帯施設を新設
自転車ロードレース競技場：八王子市西原
自転車ロードレースコース：八王子市西原
ライフル射撃競技：自衛隊前設計事務所利用、クレー射撃：所沢に新設
 - 1 Meiji Olympic Park (※1)
 - 2 Meiji Olympic Park (※1)
 - 3 Yoyogi Washington Heights (※1)
 - 4 近年の代々木公園周辺 (※3)
- 出典：+1 SPORTS FACILITIES THE GAMES OF THE XVIII OLYMPIC GAMES 1964
+2 SPORTS TIMERS FOR THE XVIII OLYMPIC GAMES
+3 Soule's map

札幌冬季オリンピックアーカイブス

—オリンピックがつくった美しい街—

(株)ランドスケープコンサルタンツ協会

作業記録：北海道建設計画 弘川謙

日本で、そしてアジアではじめて開催された冬季オリンピック札幌大会
開催されたのは1972年2月3日～2月13日の11日間、札幌市の各地で競技が繰り広げられました。



札幌オリンピックは、札幌の街を大きく変えました。自然と調和した美しい街として、今では住んでみたい都市のトップに選ばれるほどになりました。しかし、都市の経営は楽ではなく、地下鉄は赤字にあえいでいます。また、恵庭岳滑降コースの自然復元でも、復元は成功した、いや不成功であるといった議論があります。当時、復元計画を手がけた北海道自然保護協会前会長の横 浩三氏は読売新聞のインタビューに応じて、「私は計画を託されて樹木の植栽を指揮した。30年以上を経たが、人間の力には限界があると改めて思う。植栽された針葉樹と周囲の広葉樹との林層が、まだ従来のようには調和していないからだ。」と語っています。

オリンピックは都市を変える可能性を持っていますが、その結果は100年単位の未来にあることを札幌は教えてくれています。



開会式は真駒内野外競技場、一方の閉会式は真駒内陸上競技場でした。樹木が宮前川に成長した真駒内公園は国立公園として札幌市民の憩いの場となっています。



屋外スケートリンクと周辺の森
アイスアリーナと周辺の森
写真提供：北海道建設計画

冬季オリンピックに合わせてさまざまな建設事業が行われました。投資された予算は約2000億円。おかげで都市基盤が20年早く整備されたと言われています。札幌とその近郊に14の競技施設が新設されました。開会式、閉会式が行われた屋外、屋内のスケートリンク、オリンピック村、プレスセンター事務局などは札幌市内の真駒内、西岡地区に置かれ選手村は日本住宅公団が建設した真駒内団地が充てられました。1971年12月には地下鉄南北線が開通し、この団地は都心部と約15分で結ばれました。地下鉄建設を契機に地下街が整備され札幌の街並みは大きく変貌しました。

1971年12月4日に小樽IC～札幌西ICが国道5号線の札幌小樽道路として開業(後に札幌自動車道)、道央自動車道北広島IC～千歳ICも開通しました。スキーマウスの滑降コースが造営されたのは、札幌市の南35キロに位置する恵庭岳でした。これは支笏洞爺国立公園内に位置するため、コース造成に伴い国有林の伐採、地形の原形変更が大問題でした。しかし、札幌近郊で滑降競技場の条件を満たす山は恵庭岳しかないという事情のため、一切の施設を大会後直ちに撤去し復元することを条件に、滑降競技場が設置されることになりました。



真駒内野外競技場 1972.2
札幌オリンピック選手村 1972
写真提供：札幌市営住宅マイスター



高田市長が札幌と札幌開発局長にオリンピック施設の視察 1962.05.13
第10回オリンピック冬季大会、札幌市建設委員会設立披露 1968.03.24



札幌オリンピック開催決定のブロード 1966.05.04
第10回オリンピック冬季大会、札幌市建設委員会設立披露 1968.03.24



五輪大会滑降コース 1970.11.14



札幌オリンピック開会式、聖火リレー 1972.02.03
アイスアリーナ造成式 1971.01.16
写真提供：札幌市営住宅マイスター

●自然との共存をテーマにした冬季オリンピック

1998年2月、20世紀最後の冬季オリンピックが長野で開催された。開催都市が長野市に決まった1991年6月までの招致期間、開催直前までの計画樹立と工事期間、そして会期中と、パブル経済の崩壊期にもかかわらずオリンピックムードに包まれた。長野オリンピックでは、「自然との共存、平和と友好」が基本理念として掲げられた。特に、自然との共存は、大きなハードルとなった。冬季大会では、雄大な自然の中での競技が求められ、大会の開催・運営は環境への配慮とぶつかることが少なくなかった。そのなかで未知を結集し、世紀の祭典が成功することができた。

■大会概要

会期	1998年2月7日～2月22日(16日間)
競技	スキー、スケート、アイスホッケー、バイアスロン、ボブスレー、リュージュ、カーリング 計7競技68種目
開催都市	長野市
競技開催地	長野県長野市、山ノ内町、白馬村、軽井沢町、野沢温泉村
参加国・地域	72
参加選手	2,305人
役員	2,333人
メディア	8,329人
運営委員	総数44,066人(うち32,579人がボランティア)
観客数	延べ1,442,700人

●影響の回避

招致の段階から、環境保全の観点から会場選定に議論があった。当初、滑降競技は岩登山を計画していた。岩登山は、スキー場開発の進んだ志賀高原において唯一ともいえる自然環境の残された地域であったことから、自然保護の運動が起きた。札幌大会などの教訓を活かし、岩登山の開発を断念し、既存の白馬八方尾根ス

キー場を活用することになった。男子競技の難易度を確保するためには、八方尾根コースのスタート地点を引き上げる必要があり、このために中野山岳国立公園の第1種特別地域を横切ることとなった。ここでも自然保護の観点から議論がなされ、結果として特別地域の上部にマウンドをつくりジャブで上空を通過することなどで最小化を図る案となった。この問題が解決したのは、開催2ヶ月前。自然保護と国際競技のレギュレーション確保のトレードオフについて、最後の最後まで慎重な検討が繰り返されたことを物語る。

バイアスロン競技会場では、当初予定されていた白馬村の候補地での環境アセスメントの結果、オオタカが営巣していることが判明し、環境保護を優先する観点から競技会場を野沢温泉村に変更することになった。



■アルペン滑降競技会場(白馬村八方尾根)

●環境への影響を緩和する措置

ボブスレー・リュージュ会場では、コンパクトなコース造成により土地の改変を最小限にする試みがなされた。世界で初めて上り勾配のあるレイアウトにしたり、コース冷却にはフロンガスの利用をいち早く避け、アンモニア間接冷却方式を採用した。自然環境を改変する必要のあった各会場建設においては、環境

アセスメントなどの手続きを行いながら、表土復元工法や幼樹植栽、既存木の移植利用、希少動物・植物の移植、移動ルートの確保、巨石積みなど自然素材・現地発生材の活用、構樹など人工構造物の塗装やテクチャーの工夫、建設機械の配慮など、さまざまな影響緩和の手法が実施された。

また、屋内競技施設においても、自然採光や通風、地下水利用、コージェネレーションシステム、太陽光発電など自然エネルギー利用などを積極的に取り入れ、緑化など修景にも力が入れられた。大会には多くの仮設施設が必要となるが、これらもリソース対応や転用などにより、大会後も資源を消費することなく再利用が可能となった。

●オリンピックがもたらした資産

オリンピック競技施設のみならず、大会を契機に整備が大幅に進んだ新幹線や高速道路網などは、その後長野の経済を支えるインフラとなつて機能しており、直接的な資産である。こうしたインフラを活用しながら、長野オリンピックで醸成されたホスピタリティは、パラリンピック、スペシャルオリンピックス冬季世界大会と国際的なスポーツ競技へと発展した。この時、バリアフリー、ユニバーサルデザインを普及させるチャンスであったが、街づくりの大きな潮流には至らなかった。しかしながら、大会運営はもとより、植樹や花苗育成などさまざまな面で活躍したボランティアは、かけがえのない経験として地域に息づき、無形の資産となっている。



■スパイラル(ボブスレー・リュージュ会場、長野市飯綱高原)

「環境・文化の先進モデル都市東京」をアピールする「緑と文化の回廊構想」 -ランドスケープコンサルタンツ協会からの提案-

社ランドスケープコンサルタンツ協会

事業部：清水川、池田、池田、池田

■序 ランドスケープ提言

1990年、IOC(国際オリンピック委員会)は、「スポーツ」「文化」「環境」をオリンピック・ムーブメントの三本柱にすることを表明しました。オリンピック憲章(2004年9月1日より有効)では、IOCの使命と役割として、「環境問題に関心をもち、啓発、実践を通してその責任を果たすとともに、スポーツ界において、特にオリンピック競技大会開催について、持続可能な開発を促進すること」、「スポーツを文化や教育と融合させる試みを奨励、支援すること」を掲げています。ランドスケープ提言は、国際ランドスケープコンサルタンツ協会提言委員会メンバーが平成18年1月30日に東京都へ提出したものです。緑とオープンスペースの専門家立場から、オリンピック招致活動及び招致後の会場建設や都市づくりに対する考え方をまとめ、具体化されることを関係者に強く要望したものです。

■ランドスケープアーキテクトの参画

ランドスケープは、その土地の持つ資質と歴史を活かしながら、人々や都市にとって望ましい空間・環境を創造していく技術であり、「スポーツ・環境・文化振興」を柱とする会場建設や都市づくりにおいてはその基礎となるものです。オリンピックの開催は、持続可能な社会形成につながる環境都市を実現させる絶好の機会であることから、ランドスケープアーキテクトが主体的に参画するべきです。

■「緑と文化の回廊構想」の実現

会場建設は、関係者のアクセスや経費等の点からも、既存施設を活用したコンパクトな施設配置を図っていくことが望ましい。神宮外苑地区と麹海地区を主会場とし、この軸上に位置する大規模な緑地・オープンスペースとこれらをつなぐ河川・道路等を整備して、防災機能も備えた「環境・文化の先進モデル都市東京」の基盤となる「緑と文化の回廊」の形成を図るべきです。

A: 緑と文化の回廊構想

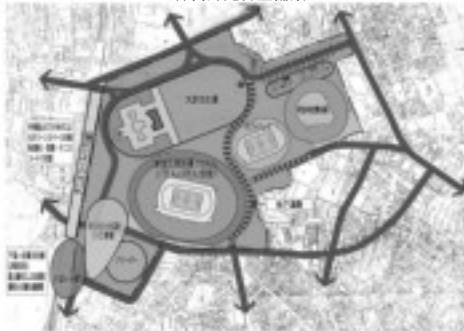
- 水の都の再生と緑のネットワークを形成する
- 歴史と文化の再生を図る
- 国際観光を育成する

- B: 都心環境の改善につながる、人に優しい交通体系の再生・創造
- 都心部への車の乗り入れを制限し、歩行者優先等の空間整備を図る。
- 都電の復活やデマンドバスの普及などにより、公共交通の機能を高める。
- 水上交通の機能の充実を図る。
- 公園道路を整備する。

□緑と水のネットワーク計画案



□神宮外苑再整備案



■オリンピック主会場として明治神宮外苑の再整備

地域の持つ歴史・文化の関りを踏まえ明治神宮外苑を主会場に設けます。グリーンインフラ強化による「緑の回廊」を形成します。

- A: グリーンインフラ強化による「みどりの回廊」形成
 - グローバルによる皇居外苑と神宮外苑と連携します。
 - 高速道路の地下化による明治神宮内苑と外苑を結ぶ馬車道を復活します。
 - オーバブリッジで神宮外苑と新宿御苑を連携します。
 - 渋谷川の再生による水辺空間を復活します。
- B: 明治神宮外苑の再整備 -近代造園発祥の基盤-
 - ①武蔵野の小丘陵地形を生かした施設を再整備します。
 - ②歩いて楽しい安心・安全なまちを整備します。
 - ③新オリンピック広場を整備します。
 - ④絵画館前の中央広場を再生します。
 - ⑤神宮野球場を再整備します。
 - ⑥オリンピック記念スポーツ館を新設します。
 - ⑦千駄ヶ谷駅を改修し新宿御苑との連携強化を図ります。



●景観を考慮した半地下構造

2016年東京オリンピック・パラリンピックで 環境資産として何をつくりだすか

石川幹子：東京大学大学院工学系研究科

1964年に開催された東京オリンピックは、日本が戦争の痛手から立ち上がり、国際社会への復帰を果たしたものであった。国立競技場、代々木公園、駒沢公園など、オリンピック関連施設の建設に留まらず、新幹線、地下鉄、モノレール、高速道路など、その後の高度経済成長を支える都市基盤が整備された。この一方で、江戸以来、親しまれてきた東京の河川は、高速道路の橋脚下となり、都心における珠寶の緑地である皇居北の丸、千鳥が淵も、高速道路により分断され、半世紀を経ることとなった。

20世紀が終焉し、有限な地球環境の持続的維持に向けて、具体的行動が速やかに実行されることが求められている今日、2016年の東京オリンピックは、「環境都市・東京」を世界に向かって明確にアピールするものでなければならない。私は、その実現に向けて、以下の3つの方針にもとづき、21世紀の環境資産の創造を行うことを提案する。

提案1 江戸・東京400年の環境遺産の発掘と継承

江戸の生命線であった玉川上水の復活と、失われた下町河川の再生により、「水と緑の回廊」をつくりだす。

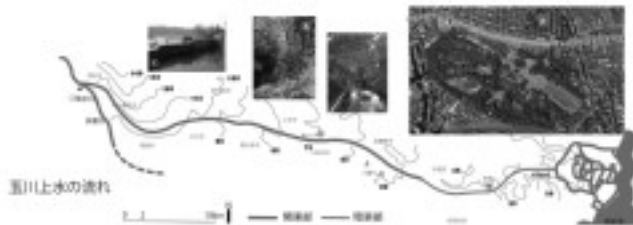
提案2 母樹の森の展開とグリーンベルトの継承

皇居の森を母樹とし、都心に四季の変化に富んだ都市林を創り出していく。また、昭和初期より、23区外縁に展開されてきたグリーンベルトを継承し、発展させていく。

提案3 豊穡の海の復活

産業構造の変化に伴う臨海部の再編を踏まえて、豊かな海の自然の再生を行い、「環境首都・東京」の象徴とする。

1. 江戸・東京400年の環境遺産の発掘と継承

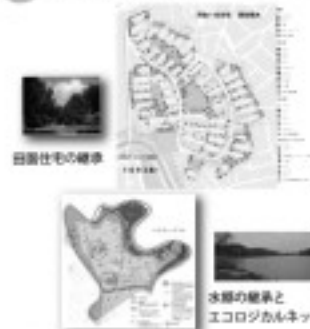


2. やわらかな都市林とグリーンベルト

母樹の森



グリーンベルトの継承



3. 豊穡の海の復活



環境首都東京ビジョン



水と緑の軸

- 皇居北の丸・千鳥が淵・皇居外苑
- 皇居外苑・皇居外苑西側
- 皇居外苑東側
- 皇居外苑南側
- 皇居外苑北側
- 皇居外苑西側
- 皇居外苑東側
- 皇居外苑南側
- 皇居外苑北側

母樹の森の展開

海の豊穡

グリーンベルトの継承

1. グリーンベルトの継承
 - 皇居の森を母樹とし、皇居の森を軸として、皇居の森を軸とする都市林を創りだす。
 - 皇居の森を軸として、皇居の森を軸とする都市林を創りだす。
 - 皇居の森を軸として、皇居の森を軸とする都市林を創りだす。
 - 皇居の森を軸として、皇居の森を軸とする都市林を創りだす。
 - 皇居の森を軸として、皇居の森を軸とする都市林を創りだす。
 - 皇居の森を軸として、皇居の森を軸とする都市林を創りだす。
 - 皇居の森を軸として、皇居の森を軸とする都市林を創りだす。
 - 皇居の森を軸として、皇居の森を軸とする都市林を創りだす。

風の道（五輪軸）構想 1

—ランドスケープコンサルタンツ協会からの提案—

(社)ランドスケープコンサルタンツ協会

代表取締役：高木忠行 取締役：藤野一彦、土川隆、小島正智

コンセプト



- 1 「風の道」となる東京都市を貫く大きな緑の軸線**を創出することで、環境都市東京のシンボルと、都市気候の緩和（ヒートアイランド抑制、水循環等）に寄与します。
また、環境共生技術（建築物の緑化等）を最大限に活用し、「風の道」の効率を高めます。
- 2 「風の道」づくりに必要な、都市の骨格づくり・街区再編・沿道整備**を実施し、環境形成の軸とするとともに、都市構造の再構築により、次世代を担う成熟都市東京の再生を行います。
また、都心居住・にぎわいの創出により街の活性化・東京都市の再生を図ります。
- 3 「風の道」は、広幅員の道路や広域避難が可能な拠点公園・緑地をネットワーク**するため、震災時の、延焼遮断帯となるとともに、安全な避難経路や避難場所、物資の輸送機能を担います。
- 4 「風の道」の実現に必要な、土地の整存や再開発、個別建て替え**を誘導するインセンティブ（ファイナンスや容積緩和等の法制度）と環境形成指針（地区計画で担保、オリンピック開催までという限られた期間のなかで、迅速な民間誘導による「風の道」形成を実現します。
- 5 「風の道」の形成にあたり、「医学療法的な緑の効果」を発揮できる健康環境の拠点とネットワーク**を創造していきます。
健康環境の創出は、一般市民のほか、オリンピック等のアスリートにとって、集中力のアップやクールダウンなどの効果を狙うことができます。

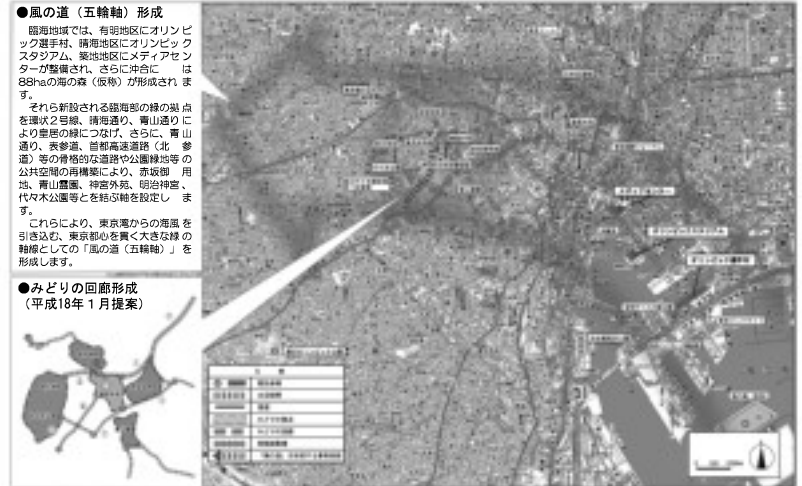
本提案の経緯

本提案は、(社)ランドスケープコンサルタンツ協会が、2016東京オリンピック招致に向けたランドスケープ提言として、平成19年1月に発表した「《提案》『風の道（五輪軸）構想』～東京みどりと水の都市軸づくり（案）～」に基づいて再編集したものです。
この提案は、「10年後の東京」（東京都：平成18年12月）を後押しする目的で策定されました。臨海地区が主会場となることを前提に、既存施設が集中する神宮外苑地区とを軸として「風の道（五輪軸）」と設定し、具体化に向けた提案を行っています。
本協会の独自検討の結果も、「10年後の東京」における風の道とほぼ同様の全体プランとなりましたが、緑地の機能強化・ネットワーク整備の具体提案（「緑と文化の回廊構想」）を行い、そして軸となる「風の道SPINE」の整備手法を具体提案している点に特徴があります。

コンセプト実現のための方策

- **公共空間再構築による「風の道」形成**
「風の道」となる、幹線道路の緑道道路化や、河川や公園を再整備することで、「風の道」の骨格を公共空間で担保します。
- **ランドスケープ専門家の参画の重要性**
ランドスケープは、その土地のもつ資質と歴史を活かしながら、人々や都市にとって望ましい空間・環境を創造していく技術です。ランドスケープ専門家の積極的な参画は、オリンピック招致に貢献できるものと考えます。
- **民間誘導型まちづくりによる「風の道」形成**
街路と沿道敷地が一体となった民間開発型のまちづくりにより、「風の道」を作るとともに、新しい東京の顔となる都市観光の軸となります。

風の道（五輪軸）構想図



風の道（五輪軸）構想 2

—ランドスケープコンサルタンツ協会からの提案—

(社)ランドスケープコンサルタンツ協会

代表取締役：高木忠行 取締役：藤野一彦、土川隆、小島正智

「風の道」（五輪軸）の形成スキーム

- **「風の道」SPINEの形成**
○ 骨格的な道路である、青山通り・神宮通り等の緑道道路を軸とし、一体で整備する高層のまちづくりにより、創出する長約1000m級の連続軸となる「風の道」SPINEを創出します。
※SPINE（スパイン）：背骨
- **「風の道」（五輪軸）への成長**
○ 骨格的な道路である、環状2号線、3号線等、地域の「風の道SPINE」として整備することにより「風の道」を成長させていきます。
○ 「風の道SPINE」と周辺の実証的公園・緑地を拡大しながら緑のネットワークを確立し、「風の道」（五輪軸）を形成します。
- **「風の道」から「風の都市」へ**
○ 骨格的な道路である、環状線や放射線（日本橋、本郷線等）の地下化により、同様の「風の道」として整備することで、更に「風の道」を成長させていきます。
○ 環境共生の全体像
○ 都市空間に広がる都市計画道路で生じる緑地空間
環状線は、約2,000haの緑地空間が創出されます。
○ 都市空間の全体像
○ 都市空間の全体像
○ 都市空間の全体像
○ 都市空間の全体像
- **「風の都市」の完成**
○ 骨格的な道路である、環状線や放射線（日本橋、本郷線等）の地下化により、同様の「風の道」として整備することで、更に「風の道」を成長させていきます。
○ 環境共生の全体像
○ 都市空間に広がる都市計画道路で生じる緑地空間
環状線は、約2,000haの緑地空間が創出されます。
○ 都市空間の全体像
○ 都市空間の全体像
○ 都市空間の全体像
○ 都市空間の全体像

「風の道SPINE」の形成手法と緑地空間イメージ

緑陰道路 + 民有緑地 + 公園緑地 = 『風の道SPINE』

- **緑陰道路の形成イメージ**
緑陰道路の形成イメージ
- **公園緑地の再編イメージ**
公園緑地の再編イメージ
- **民有緑地の創出のイメージ（インセンティブと環境形成）**
「風の道」整備は、「環境共生」の実現に加え、「都市再生・活性化」、「景観・観光」のコンセプトの実現を目指すものであり、沿道の民間事業者による街区再編（土地区画整理事業や、市街地再開発事業等）による、街並み形成とに資する創出が不可欠となります。
このため都市計画制度上のインセンティブ（特定街区、高度利用地区、総合設計、容積転移等の各種・形態等の規制緩和）を与えながら、環境形成を誘導する「地区計画」等の制度活用が必要です。
街区再編の模式図（一般部）
まちの顔とにぎわいを創出するオープンカフェ
緑陰道路・緑陰歩道
ヒューマンスケールマウンテン・RT
成長の歩道と道路を繋ぐ歩道

「世界一緑の少ない都市」と言われたいための
 “下町景観の再生” ① ー千葉大学からの提案ー

千葉大学大学院造形学研究所建築環境学研究室
 広永篤三・細野哲史・萩野一彦・藤井英二郎

執筆担当：細野哲史、土川暁、高橋大樹

見渡す限りの市街地

東京都墨田区で、2011年の完成を目指し、高さ610mの「東京スカイツリー」(新タワー)の建設が進められています。新タワーには、350mの高さにレストラン・カフェなどが、また450mの高さには空中回廊が、それぞれ設けられることになっています。その眺望は、圧倒的な高さからの眺望であり、他に類をみない景観となるでしょう(写真1)。また、新タワーは、周辺に大規模な景観があり、国内外から多くの人が眺望景観を楽しみに訪れ、間違いなく東京の“新名所”になるでしょう。

しかし、その眺望景観は、その主対象となる東京東部のいわゆる「下町」最近では「川の手」とも呼ばれる地域には、大規模な緑地は極めて少なく、東京スカイツリーからの眺望は、川はあるもの、おそらく日本でもっとも市街地が多く緑の少ない景観であるといえるでしょう。



写真1 東京スカイツリーの建設位置における高さ610mからの眺望(北西方向)
 出典「新下町景観 超天空610mに墨田に『東京スカイツリー』がそびえる日」,東京新聞編集局編、東京新聞出版局発行、2008年7月(撮影:空原和則)(東京新聞レポーターで撮影)

新名所にふさわしい俯瞰景観の創出

一面に広がる無機質な市街地の景観は、これを眺める人に少なからず圧迫感を与えることが懸念されます。そして、このままでは東京は「世界一緑の少ない都市」との評価を受けかねません。私達は、このような圧迫感が緩和され、新タワーからの景観が人々の心に深く残り、新名所にふさわしい俯瞰景観とするために、地域の緑の増加が必要と考えます。

360°の景観再生は非常に困難ですが、一方でも重点的に改善していくことで十分な効果が期待できます。幸いにも新タワーから北西方向には、浅草寺、伝法堂、花やしきなどがあり、歴史的にもこの一帯が東京都の都市公園「浅草公園」となっていました。また、眼下には隅田川を挟んで両側の墨田公園などがあり、上野公園の森も眺むことができます。

しかし、残念ながらこれらの緑の資産は、かつてに比べ縮小され分断されています。そこで私たちは、まちづくりの様々な手法を組み合わせて、緑を創出して繋げていくための提案(パネル2)を行いました。

江戸の俯瞰景観

この絵図は、江戸文化年間に描かれた「江戸一真図」(江戸名所之繪/江戸一目図屏風)です。隅田川の東側、ちょうど「東京スカイツリー」の位置上空辺りから、富士山の方に江戸の町々を俯瞰した構図となっています。神田川とその外側の本所から浅草、上野の一帯は緑の多いゾーンであったことが分かります。

当時の江戸は、世界最大規模の人口を抱える大都市でありながら、その街並や水と緑の美しさは、西洋から訪れる著名人・文化人達を驚嘆させました。

右京東都知事も、慶応元年の慶喜山からの俯瞰写真(フェリックス・ベアト撮影)と現在の都庁舎屋上からのパノラマ写真を比べ、現代の東京の街の顔色を嘆いています。(2004年2月2日:産経新聞記事)



江戸一真図 / 撮影家不明(福岡大学図書館所蔵)

パリ・エッフェル塔の俯瞰景観

エッフェル塔は、都市計画の中で明確に位置づけられ都市の中心的軸線を構成しています。

その眺望は、2階(115.7m)からは、セーヌ川を挟んでシンメトリーなシャイヨー宮と緑の多いトロカデロ庭園を主な眺望対象とし、これらが視界の多くを占めています。

3階(276.1m)からは、市街地の中の広い道路の街路樹による明確な緑の軸が見え、また遠方に巨大なブローニュの森が見えます。この森は、緑そのものによる心理効果のほか、都市の領域を明確にすることにより、見る人に安心感を与えています。



写真2 エッフェル塔(フランス)の2階からの眺望
 出典: <https://museedulouvre.blog25.fc2.com/blog-entry-63.html>



写真3 エッフェル塔(フランス)の3階からの眺望
 出典: <http://www.parorama.com/photo/47348>

「世界一緑の少ない都市」と言われたいための
 “下町景観の再生” ② ー千葉大学からの提案ー

千葉大学大学院造形学研究所建築環境学研究室
 広永篤三・細野哲史・萩野一彦・藤井英二郎

執筆担当：細野哲史、土川暁、高橋大樹

緑の拠点と軸線の創出

●東武伊勢崎線の地下化と浅草駅の再開発

浅草駅はシンボリックな屋上・壁面緑化建築、線路用地上部は緑地とし、鉄橋部は歩行者専用橋として活用することを提案します。

●周辺ブロックの再開発

浅草駅・隅田川・言問通り・浅草寺に囲まれたブロックの重点的な再開発等により、まとまりのある公園緑地を含む緑地空間創出を提案します。

●浅草寺及び周辺駐車場の緑地化

駐車場の地下化により、地上部を緑地として整備することを提案します。

●首都高速6号線の地下化

首都高速6号線を地下化し、上部を緑地とすることを提案します。

●言問通りの緑の軸線化

C.L.A.の道の提案案と同じ手法で、緑の軸線を創出することを提案します。



浅草駅再開発イメージ



言問通り緑の軸線イメージ



※写真撮影が容易であったことから、緑地を明示するため色味を行っている。

新しい公共の緑の発想(民地内に公共の樹木を)

●民地内の景観木・緑陰樹の役割

俯瞰景観に緑を増やす手法として屋上・壁面緑化がありますが、これだけでなく民地内に景観木・緑陰樹となりうる高木を挿入していくことが効果的であると考えます。俯瞰景観からだけでなく、樹高10mを超える緑陰樹は、真夏の冷房エネルギーを40%削減できることがわかっており、都市や住宅のエコ対策としても大きな効果が期待できます。また、まちの景観木としては、官民境界に跨る空間での樹冠育成を行うことが、非常に重要なポイントです。



●制度化へ向けての着眼点

これまでの民有地の緑化は、助成制度や税制優遇などにより誘導してきましたが、所有者の善悪や負担を伴ってきました。特に管理面の負担や土地利用上の制約により、持続性の低い緑であったといえます。これからは、土地所有者の管理面の負担がなく、土地利用上はむしろメリットがあるような民有地の緑に関する制度が必要で、

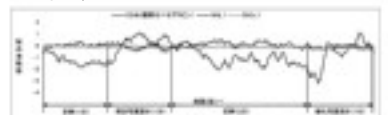
土地の所有と樹木の所有は、山林における「立木権」があるように、切り替えて考えることもできるはずです。公道に面した民有地の緑化は公共が行い、樹木を所有・管理することができれば、密集した街なかの緑は画期的に増えていくことでしょう。

また一方で、樹木の育成・管理を“役所任せにしない”ための施策も重要です。管理委託などの制度を設け、自治会などの住民組織の管理参画により、共有意識を醸成していくことが考えられます。

緑地創出による心理的な効果

NIRS(近赤外分光分析法)により、現況写真と緑地創出写真を見た時の前頭前野における脳血液動態(血液中の酸素化ヘモグロビン濃度の変化)を測定しました。2009年3月に女性(20代)1名を被験者として実験したところ、以下のような結果が得られました。

グラフ青線の酸素化ヘモグロビンの数値に注目すると、緑地創出写真は現況写真に比べて全体として数値が低めであることから、被験者がリラックスしている傾向があると考えられます。一方で、緑地創出写真は現況写真に比べて数値の揺れ幅が大きくなっていることから、リラックスした状態の中でも、被験者が興味を持って景色を観察することで一時的に脳活動が活発になることを伺わせる結果です。また被験者は、現況に比べて緑化されている場合、目が疲れず圧迫感が知らないと感想を述べていました。



※グラフは脳血液動態(前頭前野)の酸素化ヘモグロビン濃度を示す。横軸は緑地創出写真を見た時の経過時間、縦軸は酸素化ヘモグロビン濃度を示す。

「10年後の東京」水と緑の回廊に包まれた、美しいまち東京を復活させる

東京都「10年後の東京—まちが動き出す—」(2009年12月)より抜粋

水と緑の回廊に包まれた、美しいまち東京を復活させる

- ### 10年後の東京の姿
- 東京に、皇居と同じ大きさの緑の島が出現
 - ・「海の森」を、中央防波堤内側分塊に整備
 - 都心の700haの緑をグリーンロード・ネットワーク[セントラルパークの2倍]
 - ・「海の森」から都心の既存大規模緑地を、幹線道路の街路樹で結び、風の道を創出
 - ・都心の大規模緑地
 - 晴海、皇居外苑、神宮外苑、代々木公園、新宿御苑などの緑の拠点
 - ・都心の幹線道路
 - 新設の環状2号線から既設の外堀通り、靖国通り、新宿通り、青山通り、表参道
 - 新たに1,000haの緑を生み出す
 [サッカー場1,500面]
 - ・あらゆる都市空間の隙間を緑化(400ha)
 - 屋上や壁面、駐車場などを、都民や企業の協力を得ながら緑化
 - ・都内の全公立小中学校の校庭芝生化(300ha)
 - ・都市公園を整備(300ha)
 - ・水辺空間を緑でネットワーク
 - ・点在する空き地をネットワーク化し、ミニ防災公園として再生
 - 都内の街路樹を100万本に倍増
 - 東京全体で「緑のムーブメント」
 - ・都市開発事業者が、自ら緑を増やす工夫
 - ・新たな募金の仕組み創設、都民・企業が一体参加
 - ・校庭の芝生管理は、地域での「東京芝生応援団」
 - ・身近な緑を教材に環境教育



都民による緑豊かなまちづくり (まちなか緑化の推進)

(財)東京都公園協会

東京都内の公園、道路、河川などの骨格となる公共の緑と連続する民有地の安定した緑を増やすために、(財)東京都公園協会では、「まちなか緑化活動支援事業」を平成20年4月から実施しています。

■緑化支援

専門家による、体感セミナー、緑の店作りなどのワークショップ、デザインプレゼンテーション等を行い、緑化を担う地域の人のモチベーションを高め、緑の必要性、必然性をまず人々の心に根付かせ、コミュニティ形成を図りながら資金助成をし、地域全体の民有地の緑を増やし広めます。

■人材育成

まちなか緑化を拡大させていく上で必要な、専門的な技能を持ちまちなか緑化事業をコーディネートする人材や技術的な支援をする人材、今後まちなか緑化を実施する地域などで中心となる人材を育てています。平成21年度からフィールドリーダー養成が本格的に始まります。

(財)東京都公園協会は、緑豊かなまちづくりを目指し、都民・企業自らが創出・維持する民有地緑化のムーブメントを支援しまちなか緑化を推進しています。

東京都公園協会は、まちなか緑化活動支援事業の他にも民間緑化事業等に対し助成金による支援を行っています。

① 街かど緑化支援事業
② 花壇・庭づくり活動支援事業

各事業のお問い合わせは下記までご連絡下さい。

■平成20年度のまちなか緑化活動支援事業



東京都公園協会 東京都公園協会 東京都公園協会

社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会会員名簿

◎：会長 ○：副会長 ◇：常任理事

正会員（五十音順）						
会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号	
(株)アーバンデザインコンサルタント	03-3353-1016	山口 隆 康	160-0022	新宿区新宿1-26-9 ビリーヴ新宿	03-3353-1018	
(株)アーバンデザインコンサルタント	092-589-0081	◇堤 八恵子	812-0888	福岡市博多区板付4-7-28	092-589-0080	
(株)愛植物設計事務所	03-3291-3380	山本 紀 久	101-0064	千代田区猿楽町2-4-11 大塚ビル	03-3291-3381	
(株)あい造園設計事務所	03-3325-6660	○細谷 恒 夫	168-0063	杉並区和泉3-46-9 YS 第一ビル	03-3325-6262	
アジア航測(株)	03-3348-2261	赤土 攻	160-0023	新宿区西新宿6-14-1 新宿グリーンタワービル	03-3348-2231	
(株)荒木造園設計	0727-61-8874	荒木 美 眞	563-0024	池田市鉢塚2-10-11	0727-62-8234	
(株)荒谷建設コンサルタント	082-292-5481	矢野 順 也	730-0831	広島市中区江波西1-25-5	082-294-3575	
(株)アルファ計画研究所	045-263-3091	熊井千代治	231-0065	横浜市中区宮川町3-83 イワサキビル	045-263-3094	
(株)ウエスコ	086-254-2433	永山 彰	700-0033	岡山市島田本町2-5-35	086-256-5161	
(株)エーシーイー	03-3952-3171	玉村 寿 秀	165-0024	中野区松が丘2-32-19	03-3952-3177	
(株)エイト日本技術開発	03-5385-5111	川尻 幸 由	164-8601	中野区本町5-33-11 中野清水ビル	03-5341-8520	
(株)エキープ・エスパス	03-3407-4368	峰岸 久 雄	107-0062	港区南青山5-4-29	03-3407-4419	
(株)エス・イー・エヌ環境計画室	06-6373-4117	津田 主 税	530-0014	大阪市北区鶴野町4-11-1106	06-6373-4617	
(株)LAU 公共施設研究所	03-3269-6711	山本 忠 順	162-0801	新宿区山吹町352-22 グローサユウ新宿	03-3269-6715	
(株)オオバ	03-3460-0127	萩野 一 彦	153-0042	目黒区青葉台4-4-12-101	03-3467-8160	
(株)環境・グリーンエンジニア	03-5209-3691	杉浦 力	101-0041	千代田区神田須田町2-6-5 OS'85ビル	03-5209-3696	
(株)環境事業計画研究所	075-703-7531	吉村 龍 二	606-8166	京都市左京区一乗寺庵野町33-1	075-703-7530	
環境設計(株)	06-6261-2144	井上 芳 治	541-0056	大阪市中央区久太郎町1-4-2	06-6261-2146	
(株)環境設計研究室	03-3584-1251	川瀬 篤 美	107-0052	港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー本館11階	03-3584-1877	
(株)環境デザイン研究所	03-5575-7171	中山 豊	106-0032	港区六本木5-12-22 永坂ビル	03-5562-9928	
(株)環境緑地設計研究所	078-392-1701	松下 慶 浩	650-0024	神戸市中央区海岸通2-2-3 サンエービル	078-392-1576	
(株)環研究所	06-6306-2481	大石 博	532-0011	大阪市淀川区西中島6-8-20 花原第7ビル	06-6303-8614	
キタイ設計(株)	0748-46-4902	梶 雅 弘	521-1398	蒲生郡安土町上豊浦1030	0748-46-5620	
(株)空間創研	075-353-6337	◇吉田 昌 弘	600-8239	京都市下京区東堀川通下魚ノ瀬下る蔵屋町23番地 シンエイ堀川ビル	075-353-6338	
(株)空間文化開発機構	06-6229-0130	真鍋 建 男	541-0046	大阪市中央区平野町1-8-8 平野町安井ビル	06-6229-1292	
(株)グラック	03-3249-3010	○枝吉 茂 種	103-0004	中央区東日本橋3-6-17 山一織物ビル	03-5645-7685	
(株)KRC	026-285-7670	宮入賢一郎	381-2217	長野市稲里町中央3-33-23	026-254-7301	
(株)景観設計研究所	06-6535-0175	山田 直 樹	550-0012	大阪市西区立売堀1-2-14 本町産金ビル	06-6535-0176	
(株)景観設計・東京	03-5435-1170	都田 徹	141-0031	品川区西五反田3-8-3 町原ビル	03-5435-0909	
(株)景観プランニング	028-650-3030	阿久津純一	320-0036	宇都宮市小幡1-3-16	028-650-3034	
(株)国土開発センター	076-233-5333	小川 秀 一	920-0031	金沢市広岡3-1-1 金沢パークビル	076-233-5777	
サンコーコンサルタント(株)	03-3683-7152	有賀 一 郎	136-8522	江東区亀戸1-8-9	03-3683-7116	
(株)シビックデザイン研究所	03-3226-9821	出来 正 典	160-0022	新宿区新宿1-13-11 シブヤビル	03-3226-9815	
(株)新日本コンサルタント	076-436-2111	西田 宏	930-0142	富山市吉作910-1	076-436-2260	
(株)スペースビジョン研究所	06-6942-6569	宮前 保 子	540-0012	大阪市中央区谷町2-9-3 ガレリア大手前ビル	06-6942-6897	
セントラルコンサルタント(株)	03-5117-1061	高野 英 生	104-0042	中央区入船1-4-10	03-5117-1081	
(株)ZEN 環境設計	092-643-5500	中村 久 二	812-0053	福岡市東区箱崎1-32-40	092-643-5520	
(株)爽環境計画	03-3829-4691	木村 隆	130-0013	墨田区錦糸3-7-11 メゾン・ド・ファミリー	03-3829-4692	
(株)創建	052-682-3848	井上 忠 佳	456-0018	名古屋市熱田区新街頭1-10-1	052-682-3015	
(株)総合計画機構	06-6942-1877	◇糸谷 正 俊	540-0012	大阪市中央区谷町2-2-22 NSビル	06-6942-2447	
(株)総合設計研究所	03-3263-5954	木村 弘	102-0072	千代田区飯田橋4-9-4 飯田橋ビル1号館	03-3263-7996	
(株)総合庭園研究室	03-3300-1524	中島 寛 久	182-0003	調布市若葉町1-35-5 フォレストヒルズ仙川	03-3300-4749	
創和エクステリヤ(株)	045-662-8028	風間 伸 造	231-0014	横浜市中区常盤町2-11 大宗トキワビル	045-662-8664	
第一復建(株)	092-575-1047	畠山 美 久	816-0094	福岡市博多区諸岡1-7-25	092-575-1673	
大日本コンサルタント(株)	0489-88-8119	伝谷 恵 一	343-0851	越谷市七左町5-1	0489-88-3115	
高野ランドスケーププランニング(株)	0155-42-3181	金清 典 広	080-0344	河東郡音更町字万年西1線37番地 旧チャンネル小学校	0155-42-3863	
玉野総合コンサルタント(株)	052-979-9111	田部井伸夫	461-0005	名古屋市東区東桜2-17-14 新栄町ビル	052-979-9112	
(株)タム地域環境研究所	03-5345-5745	秋山 寛	165-0026	中野区新井2-30-4 IFOビル	03-5345-5747	
(株)地域計画建築研究所	06-6942-5732	畑 中 直 樹	540-0001	大阪市中央区城見1-4-70 住友生命OBPプラザビル	06-6941-7478	
(株)地球号	06-6945-7566	中見 哲	540-0031	大阪市中央区北浜東6-6 アクアタワー	06-6945-7595	

会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号
中央コンサルタンツ(株)	052-551-2541	藤 本 博 史	451-0042	名古屋市西区那古野2-11-23	052-551-2540
(株)東京ランドスケープ研究所	03-5988-2800	小 林 治 人	161-0033	新宿区下落合4-25-18 目白ハイビル	03-5988-2811
(株)ドーコン	011-801-1535	大 塚 英 典	004-8585	札幌市厚別区厚別中央1条5-4-1	011-801-1536
(株)都市環境ランドスケープ	06-6946-9588	波 多 野 芳 紀	540-0034	大阪市中央区島町2-4-9 島町第二野村ビル	06-6946-9747
(株)都市計画研究所	03-3262-6341	佐 藤 憲 璋	103-0014	中央区日本橋蠣殻町2-13-5 美濃友ビル	03-3669-8924
(株)トデック	03-5638-2176	越 智 常 博	135-0007	江東区新大橋1-8-11 三井生命新大橋ビル	03-5638-2168
(株)ナカタ空間企画	06-6930-4890	中 田 政 廣	536-0015	大阪市城東区新喜多1-2-17-104	06-6930-4896
中日本建設コンサルタンツ(株)	052-232-6032	中 西 秀 伸	460-0003	名古屋市中区錦1-8-6	052-221-7827
(株)中根庭園研究所	075-465-2373	中 根 史 郎	616-8013	京都市右京区谷口唐田ノ内町1-6	075-465-2374
(株)虹設計事務所	03-3419-7259	光 益 尚 登	154-0023	世田谷区若林1-1-18	03-3419-7246
(株)日建設計	03-5226-3030	根 本 哲 夫	102-8117	千代田区飯田橋2-18-3	03-5226-3053
(株)日水コン	03-5323-6200	小 林 昌 毅	163-1122	新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー	03-5323-6480
(株)日本総合計画研究所	03-3254-9668	坂 本 圭	101-0047	千代田区内神田3-2-1 栄ビル	03-3254-6714
(株)ニュージェック	06-6374-4032	出 口 直 彦	531-0074	大阪市北区本庄東2-3-20	06-6374-5147
パシフィックコンサルタンツ(株)	042-372-6530	西 上 律 治	206-8550	多摩市関戸1-7-5	042-372-6349
(株)フジランドスケープ	03-5719-2919	新 井 豊	141-0031	品川区西五反田3-8-17 宮野ビル302	03-6410-8135
(株)復建技術コンサルタント	022-262-1234	◇岩 渕 善 弘	980-0012	仙台市青葉区錦町1-7-25	022-265-9309
復建調査設計(株)	082-506-1853	真 鍋 章 良	732-0052	広島市東区光町2-10-11	082-506-1890
(株)ブレック研究所	03-5226-1101	黛 卓 郎	102-0083	千代田区麴町3-7-6 麴町 PREC ビル	03-5226-1112
(株)ヘッズ	06-6373-9369	◎大塚 守 康	530-0022	大阪市北区浪花町12-24 創建天六ビル	06-6373-9370
北海道造園設計(株)	011-758-2261	◇及 川 渉	060-0807	札幌市北区北7条西2-6 山京ビル	011-709-5341
(株)ポリテック・エイディディ	03-3456-3010	徳 丸 秀 夫	105-0014	港区芝1-5-12 TOP 浜松町ビル	03-3456-3015
(株)三菱地所設計	03-3287-5750	藤 江 哲 也	100-0005	千代田区丸の内3-2-3 富士ビル	03-3287-3230
(株)緑設計	0188-62-4263	板 垣 清 美	010-0973	秋田市八橋本町4-10-26	0188-62-4273
(株)緑の風景計画	03-3422-9511	福 添 隆 二	154-0012	世田谷区駒沢2-6-16	03-3422-9530
(株)森緑地設計事務所	03-3585-8361	藤 内 誠 一	106-0044	港区東麻布1-4-3 木内第2ビル	03-3582-2758
(株)和計画コンサルタント	03-3374-2227	鈴 木 司	151-0071	渋谷区本町5-42-10 第2 富喜マンション	03-3374-2559
(株)ライフ計画事務所	03-5626-4741	◇村岡 政 子	136-0071	江東区亀戸2-36-12	03-5626-4740
(株)LAT	082-273-2605	山 木 靖 雄	733-0821	広島市西区庚午北2-1-4	082-271-2230
(株)ランズ計画研究所	045-322-0581	川 島 保	220-0004	横浜市西区北幸2-10-27 東武立野ビル	045-322-0719
(株)ランテック計画事務所	06-6945-0065	中 尾 幸 彦	540-0031	大阪市中央区北浜東2-18 堀川ビル	06-6945-0124
(株)リアライズ造園設計事務所	06-6941-1151	新 井 英 光	540-0038	大阪市中央区内淡路町2-1-7	06-6941-1154
(株)緑景	06-6763-7167	瀬 川 勝 之	542-0064	大阪市中央区上汐1-4-6 吉井ビル	06-6765-5599
(株)緑生研究所	042-499-7211	井 上 康 平	182-0026	調布市小島町2-40-10 桐生ビル	042-487-4334
準会員 (五十音順)					
(有)エコシビルデザイン	03-5362-3701	上 村 央	160-0016	新宿区信濃町11-3 AK 信濃町ビル	03-5362-3702
(株)エコル	03-5791-2901	庄 司 悦 雄	108-0074	港区高輪3-4-1 高輪偕成ビル	03-5791-2902
(株)環境緑地研究所	011-221-4101	小 川 興 司	060-0004	札幌市中央区北4条西6-1-1 毎日札幌会館	011-221-4237
(株)現代ランドスケープ	06-6203-1270	西 辻 俊 明	541-0047	大阪市中央区淡路町2-1-10 ユニ船場	06-6203-1271
(株)サイプレス・ランドスケーププランニング	011-211-6811	中 村 圭 吾	060-0062	札幌市中央区南2条西10丁目2 山内ビル	011-211-6812
(株)シビテック	011-816-3001	笹 浪 徹 也	003-0002	札幌市白石区東札幌2条5-8-1	011-816-2561
(株)シャトーシーピー	0268-62-3255	細 谷 順 義	389-0502	東御市鞍掛383-9	0268-62-3256
(株)スタジオアークスペースアート	06-6845-9671	柳 原 壽 夫	560-0041	豊中市清風荘1-5-1 関西地販	06-6845-9672
(株)セット設計事務所	042-324-0724	池 田 与 志 雄	185-0012	国分寺市本町2-16-4	042-324-3468
ガイシン設計(株)	011-222-2325	関 利 洋	060-0005	札幌市中央区北5条西6-1-23	011-222-9103
(株)塚原緑地研究所	043-279-8005	塚 原 道 夫	261-0011	千葉市美浜区真砂3-3-7	043-279-8142
(株)辻本智子環境デザイン研究所	0799-72-0216	辻 本 智 子	656-2401	淡路市岩屋3000-176	0799-72-0217
(株)東京建設コンサルタント	03-5980-2633	和 田 淳	107-0004	豊島区北大塚1-15-6	03-5980-2601
(株)都市ランドスケープ	03-5269-8982	内 藤 英 四 郎	162-0065	新宿区住吉町5-7 曙橋ハイム鍋倉	03-5269-8982
(株)都市・景観設計	06-6228-3388	奥 村 信 一	541-0041	大阪市中央区北浜1-1-21 第2 中井ビル	06-6228-3387

会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号
(有)パーク総合デザイン	075-343-4436	松原法昭	600-8357	京都市下京区猪熊通5条下る柿本町595-28	075-343-4870
(株)ライウ環境計画	011-204-7922	有山忠男	060-0042	札幌市中央区大通西14-1-13 北日本南大通ビル	011-204-7955
(株)緑住環境計画	042-525-4560	松岡二三夫	190-0022	立川市錦町1-12-10 鈴木ビル	042-525-4561
(株)緑政計画研究所	03-3265-8482	飯塚良一	101-0065	千代田区西神田2-4-1 東方学会新館	03-3265-8483
賛助会員 (五十音順)					
アゴラ造園(株)	03-3997-2108	高橋正之輔	179-0075	練馬区高松6-2-18	03-3997-2252
荒木窯業(株)	0942-27-3231	福山茂	830-0063	久留米市荒木町荒木823	0942-27-3234
石黒体育施設(株)	052-757-4030	石黒和重	464-0848	名古屋市千種区春岡2-27-18	052-763-8110
(株)ウォーターデザイン	03-3431-8070	流郷幹男	105-0004	港区新橋6-9-2 新橋第一ビル	03-3431-8116
内田工業(株)	052-352-1811	内田裕郎	454-0825	名古屋市中区好本町3-67	052-351-1326
H.O.C(株)	0956-48-8102	岩崎英喜	858-0907	佐世保市棚方町221-2	0956-48-8111
(株)岡部	0764-41-4651	竹中祐利	930-0026	富山市八人町6-2	0764-31-6340
小岩金網(株)	03-5828-8828	島倉邦彦	111-0035	台東区西浅草3-20-14 JNTビル	03-5828-7693
(株)コトブキ タウンスケープ営業本部	03-5280-5400	上野山直樹	101-0062	千代田区神田駿河台1-2-1	03-5280-5768
(株)ザイエンス 営業本部	03-3284-0501	小山幹雄	101-0044	千代田区鍛冶町1-9-4 KYYビル	03-3284-0504
(株)サカエ	0422-47-5981	栗田嘉嗣	181-0004	三鷹市新川4-7-19	0422-49-2122
(株)サトミ産業	0258-35-3005	佐藤勉	940-0864	長岡市川崎5-495	0258-34-2513
(株)三英 景観事業部	04-7153-3141	尾山弘善	270-0133	流山市十太夫108-1	04-7153-3146
(株)三榮企業	042-386-8760	長嶋孝衛	184-0014	小金井市貫井南町4-11-36	042-386-8761
(株)サンエス	042-564-1021	横倉登	207-0022	東大和市桜が丘4-322	042-565-7239
(株)ジオスケープ	03-3588-5990	須田清隆	105-0001	港区虎ノ門2-2-5	03-3588-5991
西武造園(株)	03-6863-3732	大嶋聡	171-0022	豊島区南池袋2-30-11 池袋第一生命ビル	03-6863-3733
泉陽興業(株)	06-6632-1051	糸井雅明	556-0016	大阪市浪速区元町1-8-15	06-6632-1060
大永ドリーム(株)	027-269-6084	永島勝治	371-0131	前橋市鳥取町158-7	027-269-6086
太陽工業(株) 空間デザインカンパニー	03-3714-3461	坂手素行	153-0043	目黒区東山3-16-19	03-3791-7731
タカオ(株)	0849-55-1275	高尾典秀	720-0004	福山市御幸町中津原1787-1	0849-55-2481
(株)立山エンジニアリング	03-3449-6831	岩撫徳昭	141-0022	品川区東五反田1-8-12 小原サンデンビル	03-3449-6837
(株)中京スポーツ施設	0561-53-1111	大内田博	488-0022	尾張旭市狩宿新町2-27	0561-53-1000
テック大洋工業(株)	03-5703-1441	飯田博之	144-0052	大田区蒲田4-22-8	03-5703-1444
東亜道路工業(株)	03-3405-1813	田中秀明	106-0032	港区六本木7-3-7	03-3405-4210
トースイ(株)	03-5276-1101	星野弘壽	102-0093	千代田区平河町1-7-7	03-5276-1117
東邦レオ(株)	06-6767-1110	木田幸男	540-0005	大阪市中央区上町1-1-28	06-6767-1263
トーヨーマテラン(株)	0568-88-7080	池上英雄	480-0303	春日井市明知町1512	0568-88-3370
中村シラトリ(株)	0543-35-6271	石田勝若	424-0911	静岡市清水区宮加三660番地	0543-35-6273
(株)中村製作所	047-330-1111	朝倉辰夫	271-0093	松戸市小山510	047-330-1119
(株)ナベシマ	093-617-3039	鍋島雅英	807-1262	北九州市八幡西区野面1101-1	093-617-3040
日都産業(株)	03-3333-0210	結城健治	167-0053	杉並区西荻南1-1-9	03-3333-0631
日本体育施設(株)	03-5337-2616	奥裕之	164-0003	中野区東中野3-20-10 ケイエム中野ビル	03-5337-2610
長谷川体育施設(株)	03-3422-5331	倉部篤	154-0004	世田谷区太子堂1-4-21	03-3412-8415
花豊造園(株)	075-341-2246	山田昌次	600-8361	京都市下京区大宮通五条下る二丁目堀之上町518番地	075-361-0961
(株)日比谷アメニス	03-3453-2401	奥本寛	108-0073	港区三田4-7-27	03-3453-2426
(株)富士植木	03-3265-6731	成家次男	102-0074	千代田区九段南4-1-9	03-3265-3031
(株)丸山製作所	03-3637-4340	丸山智正	136-0071	江東区亀戸7-5-1	03-3683-7553
(株)みぞい	022-255-9770	溝井敏男	983-0821	仙台市宮城野区岩切字畑中5-9	022-255-5546
ミロモックル産業(株)	06-6390-0102	西森洋史	532-0011	大阪市淀川区西中島5-1-8 日研ビル	06-6307-2133

RLAとは何か、 ランドスケープアーキテクトとは何か。

登録ランドスケープアーキテクト自らが、資格認定試験の解説を通し、
ランドスケープアーキテクトとは何かを浮き彫りにした一冊。
ランドスケープアーキテクトを目指す方に必須・必携！

●主要目次

第1章 ランドスケープアーキテクトとは？

ランドスケープアーキテクトへの誘い
RLA制度創設の頃の思い
ランドスケープアーキテクトという職能
RLAの今後に向けて

[事例]

伝統と現代の交差—朱雀の庭
土地の記憶を生かす—きたまちしましま公園
ワークショップと風景づくり—多摩平の森
建築と緑の仕事—アクロス福岡
21世紀の庭園デザイン—京都迎賓館
自然環境の保全と再生—水元公園水産試験場跡地
まちの背景をつくる—鎌倉市・緑の基本計画
都市活動の演出—品川セントラルガーデン

[コラム ランドスケープアーキテクトへの期待]

風景デザイン (建築家 栗生明)
光の世界からRLAIに期待すること (照明デザイナー 面出薫)
「ランドスケープ」とは何か、「アーキテクト」とは何か (土木デザイナー 内藤廣)

第2章 RLA資格制度、資格認定試験

資格制度の性格と位置づけ

試験問題の内容【択一問題編】

択一問題の構成と範囲
専門基礎、計画原論、自然的側面、
歴史・文化・社会的側面、植物・植栽、
ランドスケープ関連施設・材料、造成・排水

試験問題と解法【実技問題編】

実技問題の内容と視点
出題範囲と勉強の仕方
土地利用ダイヤグラム、敷地計画、
造成・排水設計、植栽設計、詳細設計

●本書の特徴

本書は印刷物本編とCD-ROMから構成されています。本編は上記の主要目次のとおりで、第1章では、事例などを多用しつつ、ランドスケープアーキテクトとは何かについて整理しています。第2章では、資格認定試験の過去の出題問題を用いて、その解法や解説を掲載しています。

なお、本書の最大の特徴であるCD-ROMは、本編を凌ぐボリュームで、個々の択一問題の具体的な解説や実技問題の解法や複数の解答例を掲載し、より深く試験問題を理解できるようになっています。ぜひ、ご購入いただきこのCD-ROMをご覧ください。

※CD-ROMは、Windows専用となっていますが、Mac等をご使用の方には、別途、収録データをお送りする準備を整えております



編著：RLAガイドブック出版の会
発行：成慶出版
B5版／約100ページ／白黒・カラー／定価1,900円＋税
(CD-ROM：A4約150ページ相当を収録)

申込書	「ランドスケープアーキテクトになる本」を申し込みます。		冊	【特別価格申込書】 特別価格：¥1,600円(税込 送料無料)
	ご住所			
	お名前	連絡先		

この申込書を使用して発送した場合に限り特別価格で購入できます

必要事項をご記入の上、成慶出版 (FAX03-3206-6829, e-mail akutsu@seiryusyuppan.co.jp) まで直接お申込ください

□お知らせ

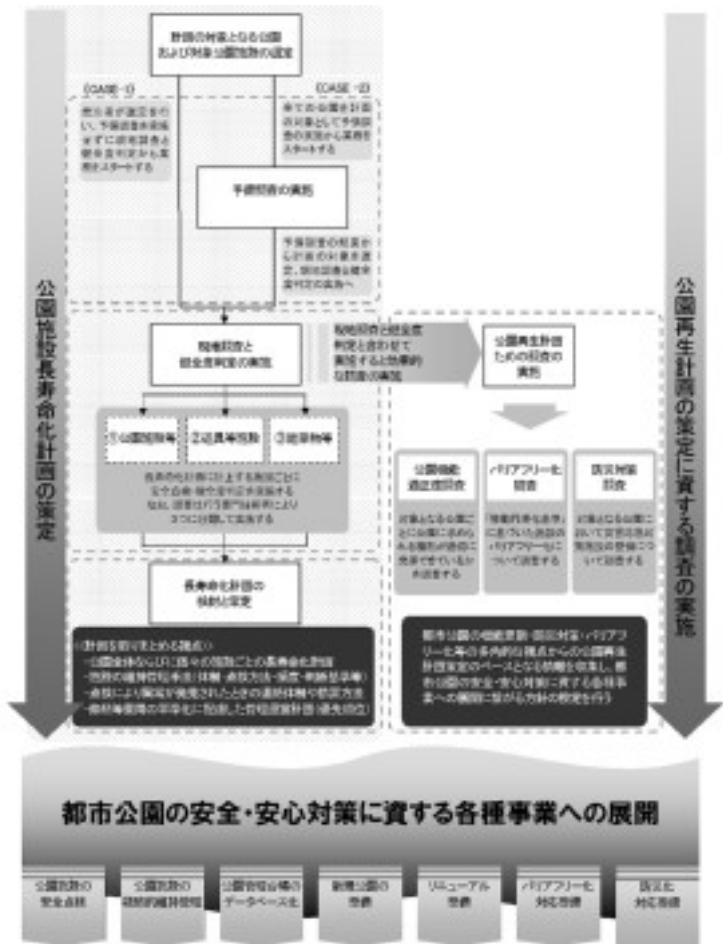
当協会では、クライアント各位の業務発注支援資料として、毎年、「会員名簿」、「造園 調査・計画・設計 標準業務報酬積算ガイドライン」を発行し無償にて配布させていただいております。

今年度は上記の資料に加え、公園施設長寿命化計画の策定を含む「都市公園安全・安心対策に関する調査・計画（公園施設長寿命化計画と公園再生計画）」の標準業務仕様書（案）および同標準業務報酬積算ガイドライン（案）を発行いたしました。

既に関係各位のもとへ資料の配布をしておりますが、お手元に届いていない方がありましたら下記の書式を使用しご請求をいただけましたら幸いです。

また、一般の方にも1部：¥2,000.-（送料別）で販売させていただいております。購入希望の方は下記事務局までお問合せください。「会員名簿」、「造園 調査・計画・設計 標準業務報酬積算ガイドライン」も販売しておりますのでお問合せいただけましたら幸いです。

問い合わせ先：
 社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会事務局
 e-mail info@cla.or.jp
 FAX 03-3239-7610



標準業務のフロー図 (仕様書(案)より抜粋)

《資料請求書式》 以下の必要な事項を記入し FAX (03-3239-7610) にて送信願います

資料名称：都市公園安全・安心対策 標準業務仕様書（案）・報酬積算ガイドライン（案）

必要部数： _____ 部 電話番号： _____

送付先住所： _____

所属・氏名： _____

〈編集後記〉
 今号は、恒例の「CLA 賞の受賞作品」とあわせて「緑の環境都市・東京・パネル展」を特集いたしました。
 「CLA 賞の受賞作品」では、会員の皆様が生懸命創作した作品が掲載されています。表彰された優秀な作品をお楽しみください。次年度の応募要領も掲載いたしましたので、来年我こそと思う若手の皆様も、準備モードに入ってください。
 「緑の環境都市・東京・パネル展」は、前号で特集した2008年10月29日のシンポジウム「オリンピックと緑の資産～東京オリンピック2016に向けて～」と同様に、オリンピック招致支援活動の一環として開催されました。

IOCの来日審査の日程に合わせ2009年4月1日～4月25日に日比谷公園「水と緑の市民カレッジ」で公開展示されました。
 この企画は、急遽東京都より当協会に要請され、会員の皆様が「年度末の嵐」の中で作成したものです。割り振り、パネル内容の検討、レイアウト、全体調整を経て、最後はパネル張りや照明のセッティングなど展示会場づくり、その後、園内に案内看板まで作成しました。看板台座は東京都公園協会に引き継がれ、現在も活用されています。掲載は展示されたパネルのおおむねそのままです。なかなかの力作ですので、これもお楽しみください。
 (有賀)

2009 No. 168

CLA journal

再生紙を使用しています。

発行日 ● 2009年10月1日

発行人 ● 大塚守康

編集 ● 社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会 広報委員会

発行所 ● 社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会
 〒102-0082 東京都千代田区一番町9-7
 一番町村上ビル
 TEL 03-3237-7371 FAX 03-3239-7610
<http://www.cla.or.jp>



ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.cla.or.jp>